

「元気な浜田」をつくるための ロードマップ。

**平成30年2月
浜田市**

浜田市が目指す将来像

住みたい 住んでよかった 魅力いっぱい 元気な浜田
～豊かな自然、温かい人情、人の絆を大切にするまち～

平成27年12月に「第2次浜田市総合振興計画」を策定し、浜田市が将来像を実現するために、7つのまちづくり大綱を掲げました。

「第2次浜田市総合振興計画」に基づき「元気な浜田」をつくるために、これまでの3つの重点政策（Ⅰ 産業振興、企業誘致などによる雇用の場の確保、Ⅱ 子育て支援、教育の充実、Ⅲ 高齢者が安心して暮らせるまちづくり）を、まちづくり大綱の各種施策に包含し、再構築して取り組んでまいりました。

7つのまちづくりの大綱

- I 活力のある産業を育て雇用をつくるまち**
- II 健康でいきいきと暮らせるまち**
- III 夢を持ち郷土を愛する人を育むまち**
- IV 自然環境を守り活かすまち**
- V 生活基盤が整った快適に暮らせるまち**
- VI 安全で安心して暮らせるまち**
- VII 協働による持続可能なまち**

このロードマップにおいて、7つのまちづくり大綱の中でも、特に重点的に取り組む項目や、その他の市政運営に係る重要な事項について、いつ検討し、いつやるのか、という行程を具体的に表しました。

浜田市長 久保田 章市

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

I：活力のある産業を育て雇用をつくるまち

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
1	水産業の活性化	10年後に水揚げ高100億円達成	実施した内容	1 漁船老朽化対策を含めた地元漁船の確保・存続対策 (1) 沖合底曳網漁業5ヶ統の存続対策(リシップ事業～対象4ヶ統) ①A船団～リシップ事業開始(8月) ②B船団～リシップ事業開始(8月) ③C及びD船団～経営体及び関係機関との協議の実施	○	実施した内容	1 漁船老朽化対策を含めた地元漁船の確保・存続対策 (1) 沖合底曳網漁業5ヶ統の存続対策(リシップ事業～対象4ヶ統) ①A船団～実証事業の継続(2年目) ②B船団～実証事業の継続(2年目) ③C船団及びD船団 ・経営体及び関係機関との協議 ・方針決定 ・C及びD船団リシップ工事(6～7月) ・C及びD船団実証事業開始(8月)	○	1 漁船老朽化対策を含めた地元漁船の確保・存続対策 (1) 沖合底曳網漁業5ヶ統の存続対策(リシップ事業～対象4ヶ統) ①A船団～2年間の実証事業完了 ②B船団～2年間の実証事業完了 ・11月末実績報告、補助金額の確定 ③C船団～実証事業の継続(2年目) ④D船団～実証事業の継続(2年目) ・1年目中間報告、取りまとめ	○	1 漁船老朽化対策を含めた地元漁船の確保・存続対策 (1) 沖合底曳網漁業5ヶ統の存続対策(リシップ実証事業の完了) ①C船団～2年間の実証事業完了 ②D船団～2年間の実証事業完了 ・9月実績報告、補助金額の確定	○	実施した内容	
				(2) まき網漁業2ヶ統の存続対策 ① まき網漁業の改革に向けた課題の整理と方向性の検討 ・地元経営体へのヒアリング実施 ・関係機関との協議の実施	△		(2) まき網漁業2ヶ統の存続対策 ① まき網漁業の改革の方向性協議 ・関係者(経営体、島根県)との協議の実施 ② まき網漁業構造改革計画の策定 ・地元経営体、関係機関との協議の実施 ・改革計画策定未着手	△	(2) まき網漁業2ヶ統の存続対策 ① まき網漁業の改革の方向性決定 ・関係者との協議 ② まき網漁業構造改革計画の策定 ・地元経営体、関係機関との協議 ・改革計画策定 安定的な水揚げ確保が見通せた時点で策定予定	△	(2) まき網漁業2ヶ統の存続対策 ① まき網漁業の改革の方向性決定 ・関係者との協議 ・漁船リース事業の活用 関係者と漁船リース事業を活用した方向性を確認 漁船リース事業に対する市の支援策決定	○		
				2 市場施設、設備等の整備 (1) 市場(荷さばき所等)受入設備整備に向けた検討 ① 高度衛生管理型荷さばき所及び新荷さばき所の整備 ・関係者協議の実施 ・方針決定 ⇒整備主体は市として、高度衛生管理基本計画策定を水産庁へ依頼	○		2 市場施設、設備等の整備 (1) 高度衛生管理型荷さばき所の整備 ・水産庁による高度衛生管理基本計画の策定に着手 ・第1回浜田漁港高度衛生管理検討協議会開催(7月) ・第1回市場ワーキング開催(8月) ・第2回市場ワーキング開催(12月) ・計画に関して県、JFLまねと協議 ・補助事業採択のための資料作成	○	2 市場施設、設備等の整備 (1) 高度衛生管理型荷さばき所の整備 ① 整備計画の決定 ・水産庁による高度衛生管理基本計画の公表(5月23日) ・特定漁港漁場整備事業計画の公表(8月29日) ・整備計画に関する関係者との協議 ② 計画に基づく事業実施 ・補助事業採択(8月) ・第1期工事の基本設計(9月)・実施設計(29年6月) ・水産関係者との意見調整	○	2 市場施設、設備等の整備 (1) 高度衛生管理型荷さばき所の整備 ① 計画に基づく事業実施 ・第1期工事 7号(まき網用)荷さばき所 実施設計(6月) 支障物件移設(7月) 実施設計の再検討(30年2月) ・第2期工事 4号(沖底他用)荷さばき所 基本設計(5月)	○		
				(2) 冷凍冷蔵庫の整備検討 ・既存冷凍冷蔵庫業者等への聞き取り ・市外施設の調査、研究	△		(2) 冷凍冷蔵庫の整備方針策定 ・市外施設の事例研究 ・整備方針についての関係者による勉強会(5月) ・整備方針未決定	△	(2) 冷凍冷蔵庫の整備支援 ・JFLまね及び民間事業者で計画 ・水産関係者との協議 ・支援方法の検討 ・民間事業者への支援方針決定	○	(2) 冷凍冷蔵庫の整備支援 ・整備事業者への支援 民間整備事業者への補助金交付決定(10月)	○		

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

[illegible]

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
2	儲かる農業の推進	・将来の浜田の顔となる農産物の育成 ・拠点農業団地などの優良農地の整備	1 浜田の顔プロジェクト (1) 振興作物の育成支援(1億円農産物の創出) ① 振興作物の決定 ・「大粒ぶどう」、「赤梨」、 「西条柿」の3作物を決定 (2) 加工品開発(農商工連携・6次産業化) ・地域と連携した振興作物の加工品開発の検討 (3) 販路拡大 ① 山陽地区・首都圏への販路拡大 ・バイヤーとの商談会参加 ・プロモーション販売の実施 ② 近隣市町との連携による販路開拓	○		1 浜田の顔プロジェクト (1) 振興作物の育成支援(1億円農産物の創出) ① 振興計画の作成 ・28年4月策定 ② 専門機関による栽培技術、加工技術の調査研究 ・冷凍保存実験、長期保存実験を実施 ③ 実験園場等の整備 ・大粒ぶどう・西条柿実験園場設置支援 ④ 営農計画転換、新植・補植等への支援、補助 ・新品種視察の実施 ・新植・補植の支援を実施 ⑤ ハウス等施設整備・改修への補助 ・施設整備への支援を実施 (2) 農家所得500万円以上を目指す仕組みづくり ① 組合せ作物の決定 ・「大豆」、「キャベツ」、「あすっこ」、「アスパラガス」の4作物を決定 ② 地域ぐるみで取り組む農業(集落営農組織、新規就農者など)への支援 ・機械等施設整備の支援を実施 ③ 集出荷施設等の整備 ・三隅育苗センター整備を支援 (3) 6次産業化の推進 ① 6次産業化の推進 ・獣肉処理加工施設整備を支援 ② 農福連携の推進 ・加工品新商品開発の協議 (4) 販路拡大 ① はまだ産業振興機構との連携による販路拡大 ・プロモーション販売の実施 ② 近隣市町との連携による販路開拓 ・特産品総覧会等への参加 ③ ふるさと納税による販路拡大 ・特産品に農畜産物を提供	○		1 儲かる農業の推進 (1) 振興作物の育成支援 ① 組合せ作物との営農プランの作成 ・29年3月作成完了 ② 栽培技術、加工技術の調査研究 ・水温貯蔵試験の実施 ③ 実験園場等の整備 ・大粒ぶどう・西条柿実験園場設置支援 ④ 営農計画転換、新植・補植等への支援、補助 ・新植・補植の支援を実施 ⑤ ハウス等施設整備・改修への補助 ・施設整備への支援を実施 ⑥ 圃場面積拡大への事業導入支援 ・ぶどうリースハウス事業意向調査実施 (2) 農家所得500万円以上を目指す仕組みづくり ① 組合せ作物の振興計画の作成 ・29年3月策定完了 ② 栽培技術・加工技術の調査研究 ・水温貯蔵試験の実施 ③ 実験園場等の整備 ・アスパラバス実証園場設置支援 ④ 集出荷施設等の整備 ・西条柿加工場の整備支援 (3) 販路拡大の支援 ① 6次産業化の推進 ・獣肉処理加工施設運営を支援 ② 農産物ブランド化の推進 ・米のブランド化への支援 ③ はまだ産業振興機構との連携 ・販路開拓支援(さつまいも) ④ ふるさと納税への農産物提供 ・特産品に農産物11品目を提供 (4) 集落ぐるみでの地域農業の推進 ① 農業振興基金事業による支援 ・9事業実施 ② 集落ぐるみで取り組む農業への支援 ・機械施設整備等の支援を実施 ・農業振興基金による補助事業の実施 ③ 中心的担い手の育成・支援 ・集落営農組織の法人化・組織化を支援 ・ふるさと農業研修制度による担い手育成 ④ 水田活用による農地保全 ・大豆作付面積拡大(49件、29.6ha) ⑤ 鳥獣被害防止への支援 ・東平原集落のモデル集落活動支援	○		1 儲かる農業の推進 (1) 振興作物の育成支援 ① 栽培技術、加工技術の調査研究 ・貯蔵試験の継続実施(良品率100%) ② 実験園場等の整備 (ぶどう根域制限栽培2年目収穫) ③ 営農計画転換、新植・補植等への支援、補助(補植2件 21経営体) ④ ハウス等施設整備・改修への補助(6件) ⑤ 圃場面積拡大への事業支援 ・ぶどうリースハウス事業の実施(61.4a) (2) 農家所得500万円以上を目指す仕組みづくり ① 組合せ作物の育成支援 ・JAと連携して農家に説明して回り、7件の農家での取組が決定 ② 実験園場等の整備(7件) ③ 集出荷施設等の整備(未実施) ④ 優良事例発表、意見交換会開催 (30年1月) (3) 農作物の出荷拡大支援 ① 少量多品目の生産推進 ② 「BUY浜田運動」に農産物の提供の働きかけ 産直市への出荷支援 (4) 販路拡大の支援 ① 6次産業化の推進 ・獣肉処理加工施設運営を支援 ② 農産物ブランド化の推進 ・米のブランド化への支援 ③ ふるさと納税への農産物提供 ・特産品に農産物15品目提供 (5) 集落ぐるみでの地域農業の推進 ① 集落ぐるみで取り組む農業への支援 ・農業振興基金事業の実施(9事業実施) ② 中心的担い手の育成・支援 ・ふるさと農業研修生育成事業の実施 (4月開始研修生5名) ・認定農業者等育成支援事業(7経営体) ・新規就農者等育成支援事業(1経営体)	○	

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

				2 大規模な農業団地の整備(元谷団地の開発) ・事業実施計画(造成等)の作成 ・用地取得(12月)			2 大規模な農業団地の整備(元谷団地の開発) (1)県営事業着手(畑地35haの圃場整備) ①現地測量、実施設計 ・県営事業着手	○		2 大規模な農業団地の整備(元谷団地の開発) (1)県営事業実施(畑地35haの圃場整備) ・28年度事業 土地造成等10月着手 ・29年度事業 実施設計着手	○		2 大規模な農業団地の整備(元谷団地の開発) (1)県営事業実施(畑地35haの圃場整備) ・28年度事業 (約4ha)完了 ・29年度事業 (約12ha)着手、30年度中に完了予定	○		2 大規模な農業団地の整備(元谷団地の開発) (2)入植者の施設整備への支援 ・国事業活用 1経営体がパイプハウス10棟を整備	○			○
--	--	--	--	---	--	--	---	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---

No.	項目	目的・目標	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度					
				評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価			
3	BUY浜田運動の推進	地元消費を増大し、経済循環を高める(平成28年度から変更)	実施した内容			実施した内容			実施した内容			実施した内容					
									1 BUY浜田運動の推進 (1)対象品の選定 ・推進委員会の開催(7月～10月、3回) ・運動対象品を食料品に決定(9月) (2)協力店の募集 ・対象品取扱店の募集(10月～随時) 46店舗(小売店、飲食店等) (29年3月末現在) (3)地産地消の啓発 ※10月16日運動開始 ・ロゴマーク公募・決定(7月～9月) ・運動グッズの作成(9～10月) ・取扱店店頭リーフレット配布イベント(10月16日、4店舗で実施) ・広報、メディアでの啓発(随時) ・石見ケーブルビジョン「扉を開けて」放送(10月) ・BB大鍋フェスティバル、産業まつり等で周知(11月) ・キヌヤLBクラブ等と連携(随時) ・「LB1グランプリ」への協力(12月4日)	○ 	○ 	△ 	△	1 BUY浜田運動の実施【第2ステップ】 (1)運動継続の仕組みづくり ・特典制度の検討 (ポイントシールによる特典付与を検討) ・女性委員の参画(2名) (2)取扱店の募集 ・取扱店の募集(小売店、飲食店等) 平成28年度 46社 ⇒ 現在65社 (30年1月末現在) (3)運動の啓発 ・運動グッズの作成(適宜) ・新規運動グッズ作成、配布済 (小型幟旗、丸形ポップ、協力書) ・運動グッズを取扱店に配付(随時) ・運動推進バッジの配布(随時) (経済団体、金融会等と連携して実施) ・広報、メディアでの啓発(随時) ・推進フォーラムの開催(5月) ・啓発標語の募集(9月～10月) 授賞式(BBフェスティバル:11月) 受賞作品掲示(各自地区産業祭:11月) ・地酒で乾杯のPR(ポスター配布、12月) ・郷土料理等献立作成(30年3月配布予定)	△ 	○ 	△
									2 BUY浜田運動の進捗管理 ・取扱店への聞き取り調査 (29年1月～2月、4店舗) ・推進委員会の開催(29年2月)			○	2 BUY浜田運動の進捗管理 ・取扱店へのアンケート調査を実施 (5店舗:4月、8月、10月、30年3月予定) ・推進委員会の開催 (3回開催:4月、10月、30年3月予定)		○		

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
4	若者や女性、シニア層の起業支援	起業者の増加	実施した内容	1 起業マインドの醸成・起業支援 (1)起業セミナーの開催 ①女性の起業セミナー 「女性のための独立・創業セミナー」 ・開催：7～8月。計5回。 ・内容：ノウハウや知識習得、発表 ②若者からシニア世代の起業セミナー 「浜田を元気にする創業塾」 ・開催：11月～12月。計5回。 ・内容：起業実施力の醸成、発表	○	実施した内容	1 起業マインドの醸成・起業支援 (1)起業セミナーの開催 ①女性の起業セミナー 「女性のための独立・創業セミナー」 ・開催：7～8月。計5回。 ・内容：ノウハウや知識習得、発表 ・新規起業者数 2件 ②若者からシニア世代の起業セミナー 「浜田創業カレッジ2015」 ・開催：11月～12月。計9回。 ・内容：起業実施力の醸成、発表 ・新規起業者数：1件	○	実施した内容	1 起業マインドの醸成・起業支援 (1)起業セミナー開催 ①段階的な啓発・育成プログラム ・女性向けプチ創業セミナー開催 (8～9月 4回講座) 参加者 16名 内容：事業立上げのノウハウ習得 ・シニア・若者向け創業セミナーの開催 (11～12月 計4回) 参加者 7名 内容：起業実施力の醸成、発表	○	実施した内容	1 起業マインドの醸成・起業支援 (1)起業セミナーの開催 ①女性向けプチ創業セミナーの開催 ・7月22日開催 計4回講座 ・参加者 16名 ・内容：事業立上げのノウハウ習得 ②島根県事業との連携開催 ・しまね起業家スクール(西部地区) ・10月6日～2月4日開催 計12回講座 ・参加者24名(内浜田市18名) ・内容：資金計画、事業計画の策定	○
				(2)起業者育成・フォローアップ事業の展開 ①起業者育成・フォローアップ計画の検討 ②関係機関との連携 ・「浜田起業支援連絡協議会」の立ち上げ	△		(2)起業者育成・フォローアップ事業の展開 ①起業者育成・フォローアップの検討・実施 ・起業支援の補助事業実施 ②関係機関との連携 ・「浜田起業支援連絡協議会」の開催	△		(2)起業者育成・フォローアップ事業の展開 ①起業者育成・フォローアップの実施 ・起業支援の補助事業実施 ・フォローアップ個別相談実施(29年2月) ②関係機関との連携 ・中小企業支援連絡協議会での情報共有(4回開催) ③クラウドファンディング活用セミナー開催 (11月4日、浜田合同庁舎) 参加者 79名 ・内容：クラウドファンディングの概要、活用方法、「Makuake」事例紹介等	○		(2)起業者育成・フォローアップ事業の展開 ①起業者育成・フォローアップの検討・実施 ・個別相談 10名参加 2月開催 ・起業支援の補助事業実施 ②関係機関との連携 ③クラウドファンディング活用セミナーの開催 ・11月22日開催 浜田公民館 ・山陰合同銀行との共同開催 ・参加者 セミナー参加者：94名 個別相談会参加数：11社 ・内容：地方創生に向けたクラウドファンディングの活用、活用のポイント、成功事例の紹介、個別相談会	○
			2 インキュベーション施設の整備 ・補助金による利用促進 ・神山町の視察		△	No.8「企業誘致」において適地の利用検討に包括するため削除								

「元氣な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度		評価	総合評価	平成27年度		評価	総合評価	平成28年度		評価	総合評価	平成29年度		評価	総合評価
5	広島プロジェクトチーム事業	・販路拡大 ・浜田港利活用促進 ・企業誘致	実施した内容	1 販路拡大支援 (1)リーフレット作成	○	○	1 販路拡大支援 (1)水産物の販路開拓 ①新規取引先の開拓に向けた営業活動 ・外食産業、スーパー、食品加工業者等 ②取引拡充を目的とした継続的なフォローアップ ③バイヤー招聘	○	○	1 販路拡大支援 (1)農水産物の販路開拓 ①新規取引先の開拓に向けた営業活動 ・外食産業、スーパー、食品加工業者等 ②取引拡充を目的とした継続的なフォローアップ ③バイヤー招聘 ④産直市の拡大	○	○	1 販路拡大支援 (1)農水産物の販路開拓 ①新規取引先の開拓に向けた営業活動 ・外食産業、スーパー、食品加工業者等 ②取引拡充を目的とした継続的なフォローアップ ③大手バイヤー招聘	○	○			
				(2)販路拡大支援のため営業活動を実施 ・アプローチ件数:115件 ・取引成立件数:12件	○		(2)関係機関との連携、協力 【新規成立件数: 42件】(浜田企業) ※延べ数 【新規取引先数: 22社】(広島等企业) 【取引成立額: 20,591千円】	○		(2)関係機関との連携、協力 ①地域商社や地域産品を扱う地元スーパー等との連携・協力 【新規成立件数: 76件】(浜田企業) ※延べ数 【新規取引先数: 34社】(広島等企业) 【取引成立額: 71,011千円】	○		(2)関係機関との連携、協力 ①地域商社や地域産品を扱う地元スーパー等との連携・協力 ②はまだ産業振興機構との連携 ③広島での商談会開催を検討 ④島根県・山陰合同銀行と連携した販路開拓 ⑤島根県と共催で石見産地ツアーを開催(10月) 【新規成立社数:16社】(広島企業) ※30年1月末現在	○				
				2 ポートセールス (1)アドバイザーの選任 :1名	○		2 ポートセールス (1)企業訪問 ①輸出入の状況調査 ②ビジネスマッチングの実施	○		2 ポートセールス (1)企業訪問 ①輸出入の状況調査 ・島根県誘致企業への訪問時、広島県北の企業への訪問時に実施 ②ビジネスマッチングの実施 ・島根県誘致企業への訪問時、広島県北の企業への訪問時に実施 ③島根県、山陰合同銀行等と連携を密にし、新規開拓先リストの作成及び訪問	○		2 ポートセールス (1)企業訪問 ①島根県誘致企業への訪問 ②広島県北の企業への訪問 ③訪問先リストに基づく訪問(貿易取引の商流の転換を提案)	△				
				(2)関係機関との情報共有、連携 ①会議への参加 ②セミナー等への参加、協力:2回	△		(2)関係機関との連携、協力 ①貿易セミナーの開催:未実施 ②アドバイザーとの情報交換会の開催:2回 【新規荷主: 1社】	△		(2)関係機関との連携、協力 ①島根県広島事務所、浜田港振興会、山陰合同銀行広島・岡山各支店等との連携強化 ②浜田港振興会とのポートセールス推進会議の開催(年4回)	○		(2)関係機関との連携、協力 ①島根県広島事務所、浜田港振興会、山陰合同銀行広島・岡山各支店等との連携強化	○				
				3 企業誘致 (1)企業誘致のため営業活動を実施 ・アプローチ件数:42件 ・相談数件あり		△	3 企業誘致 (1)関係機関との連携、協力 ①企業情報の収集、共有 ②企業への継続的なアプローチ	△		3 企業誘致 (1)関係機関との連携、協力 ①企業情報の収集・共有 ・島根県企業立地課・広島事務所、山陰合同銀行広島・岡山各支店との連携強化	○		3 企業誘致 (1)関係機関との連携、協力 ①島根県企業立地課・広島事務所、山陰合同銀行広島・岡山各支店との連携強化	○				
												</						

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度		評価	総合評価	平成27年度		評価	総合評価	平成28年度		評価	総合評価	平成29年度		評価	総合評価								
6	浜田港の活用	浜田港を活用し、産業振興を図る	実施した内容				実施した内容				実施した内容				実施した内容											
											1 浜田港の振興 (1) 港湾整備による物流機能強化 ・船舶大型化に向けた岸壁工事完了(県、8月) ・浜田港長期構想検討委員会により、浜田港長期構想策定(県、11月) ・臨港道路福井4号線の整備(国事業、平成29年度開通予定) ・新北防波堤の整備(国事業、早期完成に向け整備中) ・ガントリークレーンの整備(県事業、平成30年度完成予定) (2) 港の利用促進と取扱貨物量の増加 ①新規・大口荷主の獲得 ・企業訪問によるポートセールス ②集貨対策への取組 ・周辺市町や有識者との連携 浜田港拠点化形成研究会への参加 浜田港ポートセミナーin広島開催(7月) 山陰ポートセミナー開催(11月) ③ロシア貿易の拡大 ・「ロシア貿易発展プロジェクト」の更なる強化、充実 ⇒浜田港コンテナ取扱量 2,918TEU(27年度:2,481TEU) (3) みなとオアシス等を活用した港の賑わい創出 ①クルーズ客船の誘致促進 ・瀬戸内クルーズセミナー参加(11月) ・マーキュリートラベル社クルーズセミナー参加(12月) ②みなとオアシス等が実施するグルメイベントの誘致と全国大会への参加の検討 ③浜田港を利用した独自イベントの検討		○		○		△	○	1 浜田港の振興 (1) 港湾整備による物流機能強化 ・700TEU型大型コンテナ船の入港 ・浜田港港湾計画の改訂(県、11月改訂) ・臨港道路福井4号線整備(国事業、30年3月開通) ・新北防波堤の整備(国事業、早期完成に向け整備中) ・ガントリークレーンの整備(県事業、平成30年度完成予定) ・大型クルーズ客船の入港に向けた航行安全調査(県) →10月から入港可能 (2) 港の利用促進と取扱貨物量の増加 ①新規・大口荷主の獲得 ・企業訪問等によるポートセールス 大口荷主を獲得 ②集貨・創貨対策への取組 ・周辺市町や有識者との連携 ・浜田港拠点化形成研究会との連携 集荷対策ワーキンググループの開催 ③ロシア貿易の拡大 ・「ロシア貿易発展プロジェクト」の強化 ⇒浜田港コンテナ取扱貨物量 2,954TEU(30年1月末現在) (28年度:2,918 TEU) (3) みなとオアシス等を活用した港の賑わい創出 ①クルーズ客船の誘致促進 「みなとオアシス運営協議会」体制見直しと「港湾協力団体」への登録(11月) 運営協議会開催とクルーズ船受入推進ワーキンググループの設立(30年1月) ・観光部門と連携した独自プラン作成と船社等へのセールス 寄港に向け船会社へのセールスの実施 県、周辺市町と連携したランドオペレーター及び船社へのセールス ②みなとオアシス等が実施するグルメイベントの誘致と全国大会への参加の検討 ・Sea-1グルメフェスティバルの活用など、水産部門との連携 Sea-1グルメフェスティバル開催(11月) ③浜田港を利用した賑わいイベントの開催等 ・みなとオアシス運営協議会が主催するイベントの開催 クルーズ船寄港時のおもてなしイベント実施 ・みなとオアシス浜田で開催されるイベントへの協力 Hamadaマリン郷育プロジェクトとの連携 ⇒平成30年度、外国船籍のクルーズ船の初寄港が決定(年間3寄港)		○		○		○	○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度		評価	総合評価	平成27年度		評価	総合評価	平成28年度		評価	総合評価	平成29年度		評価	総合評価	
7	「ようこそ！浜田」運動の推進	観光・交流人口の増	実施した内容	1 観光資源の発掘及び観光コースの企画 (1) 浜田の「お宝」掘り起こしと情報発信機能の充実 ・公募による「宝さがし」実施(5月～6月) ・応募者数203名、応募総数473件、お宝件数312件 ・観光コースを10コース作成 ・ホームページ掲載、チラシの窓口設置 (2) 観光コースおすすめ企画及びモニター検証の実施 ・「観光おすすめコース」の作成(10コース)	○	△	1 観光資源の発掘及び観光コースの企画 (1) 浜田の「お宝」掘り起こしと情報発信機能の充実 ① 浜田の「お宝」の情報発信 ・観光おすすめコースのチラシ設置 ・ホームページによる情報発信 (2) 観光コースおすすめ企画及びモニター検証の実施 ・アンケート調査の実施(5月～9月) ・モニターツアーは見送り ・観光コースの見直し、拡充	○	△	○	1 「お宝観光資源」を活用した観光商品化 (1) 「観光おすすめコース」の充実 ・観光コースマップの見直し(10コース) ・ウォーキングコース作成(5コース) ・観光おすすめコースの商品化検討 4社の旅行会社に提案 (2) 産業観光の企画検討 ・先進地視察を実施し運営体制を検討も実現に至らず ・コース設定の検討 → 次年度に延期 (3) インバウンド対策 ・モニターツアーの実施(29年3月) ・外国人宿泊者対象のアンケート調査(6月から実施)	○	△	△	1 「お宝観光資源」を活用した観光商品化 (1) 「観光おすすめコース」の充実 ・観光コースマップ見直しの検討 拡充、見直しまではできず ・ウォーキングコースの拡充(5コース) ・観光おすすめコースの商品化提案 「山陰ディステーションキャンペーン」のイベント及び「観光情報説明会」等で旅行会社に提案 (2) 産業観光の企画検討 ・対象施設抽出、コース設定 ・市民対象モニターツアーの実施(30年3月) (3) インバウンド対策 ① 広島からの個人外国人旅行者の受入体制構築 高速バス時刻表の英語パンフレットを広島駅等に配置 ② 海外クルーズ船誘致の支援 平成30年度、外国船籍のクルーズ船の初寄港が決定【再掲】 ③ 外国人宿泊者対象のアンケート継続実施 継続実施中 ④ 国際交流員を活用した情報発信と外国語パンフレットの充実 SNS(英語、ベトナム語、中国語)による情報発信を実施 英語以外(中国語ほか)の外国語パンフレットの作成	△	○	△	△
				2 交流人口増加の仕組みづくり (1) 浜田市合宿等誘致事業の実施 ・合宿102件、宿泊数3,642泊(27年3月末) (2) 研究学会、シンポジウム等の誘致 ・コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーンの誘致(参加者364名) ・広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会設置 ・浜田でコーヒーを楽しむ会実行委員会設置 ・「コーヒー学入門」開催(参加約140名) ・自転車ロードレース大会の開催、効果の検証 ・ユネスコ和紙シンポジウムの誘致活動	○	○	2 交流人口増加の仕組みづくり (1) 浜田市合宿等誘致事業の実施 ・合宿97件、宿泊数3,831泊(28年3月末) (2) 研究学会・シンポジウム等の誘致 ① コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーンの誘致(参加者352名) ② 広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム開催(参加者191名) ③ 浜田でコーヒーを楽しむ会開催(参加者168名) ④ ユネスコ和紙シンポジウム開催(8月東京開催、参加者約300名) ⑤ 山陰浜田港マリン大橋リレーマラソン大会の開催(28年2月) (3) コンベンション等の誘致 ① 誘致体制づくり ・誘致活動連携組織立ち上げ準備 ② プロモート体制づくり ・ホームページ開設(28年3月) ③ 助成制度の実施 ・4件(28年3月末)	○	○	○	2 交流人口増加の仕組みづくり (1) 浜田市合宿等誘致事業の実施 ・助成制度の継続実施 ・合宿102件、宿泊数3,634泊(29年3月末) (2) 研究学会・シンポジウム等の誘致 ① 第2回山陰浜田港マリン大橋リレーマラソン大会の開催(29年3月18日) ② サイクリング大会研究、準備 ・平成29年度に調査事業実施予定 ③ ユネスコ和紙サミット開催(7月2日) ④ 地域活性学会第8回研究大会視察(9月2日～4日長野県小布施町) ⇒平成29年度浜田市での開催決定 (3) コンベンション等の誘致 ① 誘致体制づくり ・浜田市コンベンション連絡協議会設立(6月10日) ② 誘致活動 ③ 助成制度の継続実施 ・5件、1,284泊(29年3月末)	△	○	○	△	○	○	2 交流人口増加の仕組みづくり (1) 浜田市合宿等誘致事業の実施 ・助成制度の継続実施 ・合宿92件、宿泊数3,589泊(30年1月末現在) (2) 研究学会・シンポジウム等の誘致 ① 第3回山陰浜田港マリン大橋リレーマラソン大会の開催(30年3月3日) ② サイクリング大会研究、準備 ・調査事業実施(5月29日～6月30日)一試走済 周辺自治体に共同開催を提案するも、開催については当面見送り ③ 地域活性学会第9回研究大会開催(9月1日～3日)参加者463名 (3) コンベンション等の誘致 ① 誘致体制の運用 ・浜田市コンベンション連絡協議会開催(7月) ② 誘致活動 ・観光情報説明会(県、県観光連盟主催)で旅行会社に提案 ③ 助成制度の継続実施 ・2件223泊(30年1月末現在)	○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

[illegible]

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

			3 「おもてなし」のまちづくり 上記1及び2に注力するため、平成27年度に取組開始延期			×	4 「おもてなし」のまちづくり (1)おもてなしのスキルアップ ①おもてなし研修及び勉強会開催(3回) (対象:市民及び観光関係者等) (2)現地ガイドの育成・充実 ①観光ボランティアガイド、観光関係者、地域住民等を対象とした観光コースの現地研修 ・広浜鉄道今福線ガイドの実地研修 ・浜田市観光ボランティアガイドの会独自研修の実施 ②観光協会の体制強化(案内体制を検討、案内窓口機能の充実)	△ △ △		4 「おもてなし」のまちづくり (1)受入体制の充実 ①市内観光事業者等へのイベント情報等の提供の仕組みづくり 引き続き検討 ②観光地勉強会の開催 次年度ガイド育成に併せて実施検討 ③レンタサイクル実証事業の実施(11月) ④浜田道利用促進誘客事業の実施(12月) (2)現地ガイドの育成・充実 ・観光ボランティアガイド育成勉強会の開催 広浜鉄道今福線実施 浜田開府400年関連 ⇒ 次年度に延期 (3)観光協会の組織体制強化 ・業務内容の整理、案内体制の検討 ・案内窓口機能の充実等	△ △ △		4 「おもてなし」のまちづくり (1)受入体制の充実 ①市内観光事業者等へのイベント情報等の提供等によるおもてなし向上の検討 ・観光協会と連携し、ホームページやFacebookを活用したイベント情報を発信 ②レンタサイクル実証事業の拡充 ・継続実施(拡充は見送り) ③浜田道利用促進誘客事業の拡充 ・継続実施(新規応募事業者なし) (2)現地ガイドの育成・充実 ・観光ボランティアガイド育成勉強会の開催 浜田開府400年記念市民講座(3回) (3)観光協会の組織体制の強化 ・観光協会の業務見直し ・観光案内の充実及び新業務体制への移行	△ ○ ○ ○	○
--	--	--	--	--	--	---	---	---------------------	--	--	---------------------	--	---	------------------------------	---

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
				評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価
8	企業誘致	適地を確保し、企業誘致	実施した内容	1 適地の調査・検討(公共用地等調査) (1)適地リストを作成 ・土地:適地25件、やや適地26件 ・建物:適地 5件、やや適地 1件 (2)公共施設(廃校利用)調査・検討整備 ①後野小、佐野小の消防設備等を整備 ②廃校リストを作成 ・遊休施設活用候補 4施設	○ 									

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

Ⅱ：健康でいきいきと暮らせるまち

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
9	子育てしながら働けるより良い環境づくり	・待機児童ゼロ ・子育て世帯の経済的負担軽減	実施した内容			実施した内容			実施した内容			実施した内容		
			1 待機児童ゼロに向けた取組 (1) 保育士の処遇改善 ・市内全認可保育所26園で国制度事業の取組実施	○		1 待機児童ゼロに向けた取組 (1) 保育士の処遇改善 ① 子ども・子育て支援事業に基づく事業実施(国制度活用) ・市内全認可保育所26園で実施 ・基本給、賞与、手当、一時金の増額 一人当たり平均年額24,078円の増額(対象は、非正規職員を含む全職員)	○		1 待機児童ゼロに向けた取組 (1) 保育士の処遇改善 ① 子ども・子育て支援事業に基づく事業実施(国制度活用) ・市内全認可保育所26園で実施 ・基本給、賞与、手当、一時金の増額 一人当たり平均年額31,079円の増額(対象は、非正規職員を含む全職員)	○		1 待機児童ゼロに向けた取組 (1) 保育士の処遇改善(国制度の活用) ・加算Ⅰ(施設の職員全体の賃金改善を図るための加算) ⇒市内全認可保育所28園で継続 ・加算Ⅱ(職員の技能や経験に応じた賃金改善を図るための加算) ⇒市内認可保育所27園で実施 ※金額については30年3月末に集計	○	
			(2) 保育士確保 ・保育士修学資金貸付の実施 ・島根県貸付への上乗せ貸付及び償還免除規定を定める ⇒貸付決定5名	○		(2) 保育士確保 ① 保育士確保状況 ・平成27年度採用保育士数 22人(他保育園からの転園者を除く) ② 保育士修学資金貸付事業【継続】 ・保育士修学資金貸付の実施 ・2年目貸付決定5名 ・新規貸付決定2名	○		(2) 保育士確保 ① 保育士確保状況 ・平成28年度採用保育士数 19人(他保育園からの転園者を除く) ② 保育士修学資金貸付事業【継続】 ・保育士修学資金貸付の実施 ・2年目貸付決定2名 ・新規貸付決定11名 ③ 各高等学校への修学資金貸付制度PR ・市内各高校進路指導教諭への制度周知	○		(2) 保育士確保 ① 保育士確保状況 ・平成29年度採用保育士数 11人(他保育園からの転園者を除く) ② 保育士修学資金貸付事業【継続】 ・保育士修学資金貸付の実施 ・2年目貸付決定 10名 ・新規貸付決定 6名 ③ 各高等学校への修学資金貸付制度PR ・市内各高校進路指導教諭への制度周知	○	
			(3) 0歳児受入促進 ・施設での保育士確保での受入拡充へ助成実施(22園) ・産休・育休復帰入所希望調査	○		(3) 0歳児受入促進 ① 保育士追加配置補助【継続】 ② 事業検証(28年3月末) ・0歳児入所児童数293人(入所率95.4%) ・0歳児待機児童数14人 ・0歳児入所児童のうち産休・育休復帰優先受入児童数55人	○		(3) 0歳児受入促進 ① 保育士追加配置補助【継続】 ② 受入状況 ・0歳児入所児童数280人(入所率87.7%) (29年3月末現在) ・0歳児待機児童数37人(29年3月末現在) ・0歳児入所児童のうち産休・育休復帰優先受入児童数61人(29年3月末現在)	○		(3) 0歳児受入促進 ① 保育士追加配置補助【継続】 ② 受入状況 ・0歳児入所児童数258人(入所率91.2%) (30年1月末現在) ・0歳児待機児童数0人(30年1月末現在) ・0歳児入所児童のうち産休・育休復帰優先受入児童数47人(30年1月末現在)	○	
			2 子育て世帯の経済的負担軽減			2 子育て世帯の経済的負担軽減			2 子育て世帯の経済的負担軽減			2 子育て世帯の経済的負担軽減		
			(1) 保育料の軽減 ・第3子以降保育料軽減の年齢制限撤廃 (軽減対象374名(27年3月末))	○		(1) 保育料の軽減 ① 第3子以降保育料の軽減拡充【継続】 ・第3子以降保育料軽減の継続 (軽減対象355名(28年3月末))	○		(1) 保育料の軽減 ① 第3子以降保育料軽減の継続 ・軽減対象 277名(29年3月末現在) ② 第1子、第2子保育料軽減の拡充 ・軽減対象 674名(29年3月末現在) ③ ひとり親家庭保育料軽減の拡充 ・軽減対象 91名(29年3月末現在)	○		(1) 保育料の軽減 ① 第3子以降保育料軽減の継続 ・軽減対象 280名(30年1月末現在) ② 第1子、第2子保育料軽減の拡充 ・軽減対象 613名(30年1月末現在) ③ ひとり親家庭保育料軽減の拡充 ・軽減対象 71名(30年1月末現在)	○	
			(2) 医療費の負担軽減 ・現行「小学校6年生まで」の児童医療費助成対象者を「中学校3年生まで」に拡充することに向けた検討・準備 ・拡充対象者への申請案内(27年1月) ・資格者証の送付(27年3月)	○		(2) 医療費の負担軽減 児童医療費助成対象者を「中学校3年生まで」に拡充 ・4月診療分から助成開始 自己負担限度額(1か月、1医療機関) 入院：2,000円 通院：1,000円 ※薬局等は自己負担なし ・未申請者への勧奨案内(4月、10月) ・中学生への資格者証交付状況 1,358人(99.3%) (28年3月末) ・中学生1人当り医療費負担軽減額 8,140円(4～2月累計額)	○		(2) 医療費の負担軽減 児童医療費助成対象者を「中学校3年生まで」として継続実施 自己負担限度額(1か月、1医療機関) 入院：2,000円 通院：1,000円 ※薬局等は自己負担なし ・未申請者への勧奨案内(5月、7月) ・中学生への資格者証交付状況 1,385人(100%) (29年3月末現在) ・中学生1人当り医療費負担軽減額 14,679円(3～2月累計額)	○		(2) 医療費の負担軽減 ① 児童医療費助成対象者を「中学校3年生まで」として継続実施 自己負担限度額(1か月、1医療機関) 入院：2,000円 通院：1,000円 ※薬局等は自己負担なし ・中学生への資格者証交付状況 1,374人(100%) (30年1月末現在) ・中学生1人当り医療費負担軽減額 12,106円(3～12月累計額) ② 乳幼児医療費助成対象者の自己負担額の無料化を検討 ・平成30年10月から実施予定	○	

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
			評価	総合評価	評価	総合評価	評価	総合評価	評価	総合評価
10	妊娠出産に関する悩みや不安の解消	不妊治療等に対する支援	実施した内容		実施した内容		実施した内容	1 不妊治療等に関する支援 (1) 一般不妊治療費補助の拡充 ・限度額引き上げ年間 40,000円→80,000円 ・一般不妊治療費補助対象者 28年4月～29年3月実績 申請者数 49件 申請件数 57件 助成額 2,345,668円 (妊娠数18件:妊娠率36.73%) (2) 特定不妊治療費補助の新設 ・市助成上限 治療1回あたり75,000円 (最大で通算6回まで) ・島根県の補助に上乗せで補助 ・特定不妊治療費助成対象者 28年4月～29年3月実績 申請者数 35件 申請件数 57件 助成額 2,855,842円 (妊娠数19件:妊娠率54.2%) (3) 不育治療費補助の新設 ・上限 妊娠1回あたり50,000円 ・不育症治療費助成対象者 28年4月～29年3月実績 申請者数 2件 申請件数 2件 助成額 100,000円 (出産数2件:出産率100%)	○ 	

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
				評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価
11	高齢者福祉施設の拡充	施設入所待機者の縮減	実施した内容	1 入所施設の拡充 (1)第5期介護保険事業計画の実施 ①特別養護老人ホーム(30床)整備 ・27年4月開設(長沢町)	○	実施した内容	1 入所施設の拡充 (1)第5期介護保険事業計画 ①特別養護老人ホームロング・レン(長沢町) ・30床+ショートステイ10床を4月1日に供用開始	○	1 入所施設の拡充 (1)第6期介護保険事業計画 ①事業者による施設整備 ・特別養護老人ホーム(金城町久佐) 30床を29年4月に供用開始 ・認知症対応型グループホーム(長沢町)1ユニット(9床)について、事業者を選定 ・小規模多機能型居宅介護(久代町)1事業所について、事業者を選定	○	実施した内容	1 入所施設の拡充 (1)第6期介護保険事業計画 ①事業者による施設整備 ・認知症対応型グループホーム(長沢町)1ユニット(9床) ⇒事業者都合により辞退 ・小規模多機能型居宅介護(久代町)1事業所 ⇒8月に供用開始	○	○
				(2)第6期介護保険事業計画の策定 ①特養老人ホーム整備(30床) ②認知症対応型グループホーム整備(18床) ③複合型サービス又は小規模多機能型居宅介護施設整備(1事業所)	○		(2)第6期介護保険事業計画 ①整備事業者の募集(広域)(6月~8月) ②整備事業者の選定(広域)(9月) ・特別養護老人ホーム30床(金城町久佐) ・認知症対応型グループホーム1ユニット(9床)(江津市内) ・小規模多機能型居宅介護1事業所(久代町) ③事業者による施設整備 ・平成28年度以降	○		○		(2)第7期介護保険事業計画の策定 ・給付実績及び各種調査結果の分析 ・入所待機者調査による状況把握 ⇒30年3月に事業計画策定	○	
							(3)介護人材の確保 ①地元人材の活用 補助率2分の1(上限1人あたり10万円) …14名の雇用に対し助成(1,400千円) ②Uターン人材の活用 補助率3分の2(上限1人あたり20万円) …4名の雇用に対し助成(800千円) ※シングルペアレント受入事業による雇用 ③人材育成 補助率10分の10 (上限1事業所あたり10万円) …5事業所(8名)の新規雇用者の研修に対し助成(323千円) ※年度途中に要件を「新規雇用」から「1年以内の研修」に緩和(従来は同一年内)	○		○		(3)介護人材の確保 ①地元人材の活用 補助率2分の1(上限1人あたり10万円) …4名の雇用に対し助成(400千円) ②Uターン人材の活用 補助率3分の2(上限1人あたり20万円) …3名の雇用に対し助成(600千円) ※うちシングルペアレント受入事業該当者…3名 ③人材育成(新規雇用者の研修) 補助率10分の10 (上限1事業所あたり10万円) …2事業所(2名)の新規雇用者の研修に対し助成(166千円)	○	
												【30年1月末現在】		

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

Ⅲ：夢を持ち郷土を愛する人を育むまち

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
12	学力向上 (項目名変更)	全国学力・学習状況調査結果からの課題に対する支援	1 国語教育の充実 (1)読書・作文活動の推進 ・読書ノートを全児童生徒に配布 ・学校図書館貸出冊数 (27年3月末) 小学生:平均57冊 中学生:平均16冊 ・学校訪問による学校図書館支援員等への支援・アドバイス実施	○	○	1 国語教育の充実 (1)読書・作文活動の推進 ・読書ノートを全児童生徒に配布 ・学校図書館貸出冊数 (28年2月末) 小学生:平均60冊 中学生:平均15冊 ・学校訪問による学校図書館支援員等への支援・アドバイスの実施 (全小中学校で実施)	○	○	1 国語教育の充実 (1)読書・作文活動の推進 ・読書ノートを全児童生徒に配布 ・学校図書館貸出冊数 (年間目標:小学生60冊、中学生15冊) (29年2月末) 小学生:平均66冊 中学生:平均15冊 ・学校図書館支援員等への支援・アドバイス 全小中学校で実施	○	○	1 国語教育の充実 (1)読書・作文活動の推進 ・読書ノートを全児童生徒に配布 ・学校図書館貸出冊数 (年間目標:小学生60冊、中学生15冊) (30年3月取りまとめ予定) ・学校図書館支援員等への支援・アドバイス (全小中学校で実施)	○	○
			(2)学校図書館の活用促進 ・教員、学校司書等を対象の図書館活用教育の研修会実施(8回) ・学校図書館活用教育研究指定校(2校)での公開授業を実施 (14回) ・小中学校 調べる学習コンクールを実施(応募作品:161点) ・学校図書館活用教育授業の指導主事による学校訪問指導を実施	○		(2)学校図書館の活用促進 ・教員、学校司書等を対象の図書館活用教育推進の研修会の開催(9回) ・学校図書館活用教育研究指定校(4校)での公開授業の実施(16回) ・小中学校調べる学習コンクールの実施(応募作品:228点) ・学校図書館活用教育授業の指導主事による学校訪問指導の実施(6回)	○		(2)学校図書館の活用促進 ・教員、学校司書等を対象の図書館活用教育推進の研修会の開催(11回) ・学校図書館活用教育研究指定校(4校)での公開授業の実施(15回) ・小中学校調べる学習コンクールの実施(応募作品189点) ・学校図書館活用教育授業の指導主事による学校訪問指導の実施(13回)	○		(2)学校図書館の活用促進 ・教員、学校司書等を対象の図書館活用教育推進の研修会の開催(11回) ・学校図書館活用教育研究指定校(2校)での公開授業の実施 ・小中学校調べる学習コンクールの実施(応募作品185点) ・指導主事による学校訪問指導の実施(4回)	○	
			(3)国語を中心とした授業改善 ・教員(3名)の福井市視察研修及び公開授業・視察報告会の実施(3回) ・示範授業(5年国語)による授業力向上研修を実施(92名参加) ・新しい学びプロジェクト(協調学習)研修会を実施(21名参加) ・協調学習公開授業(4年算数)を実施(25名参加) ・家庭学習ノートコンテストを実施(応募ノート 133点) ・好事例をまとめたパンフレットを市内全ての児童生徒に配布	○		(3)国語を中心とした授業改善 ・教員による先進地視察研修及び公開授業・視察報告会の実施 福井市視察研修 5日間 3名 公開授業・視察報告会(3回) ・スーパーティーチャー示範授業による授業力向上研修の実施 小学校4年 国語(85名参加) ・新しい学びプロジェクト(協調学習)研修会の実施(23名参加) ・協調学習公開授業の実施(5回) ・家庭学習ノートコンテストの実施 好事例を児童生徒に紹介	○		2 家庭学習の充実 (1)家庭学習ノートコンテストの実施 (応募期間29年1月16～27日) (2)学習プリント配信システムによるプリント学習支援 ・印刷配布枚数252, 563枚(29年3月末) ・アクセス数11,090回(29年3月末) (3)土曜学習の実施 ・17回実施、延べ227人参加(3月末) (1回当たり約6.1人参加)	○	△	3 家庭学習の充実 (1)家庭学習ノートコンテストの実施 (応募期間30年1月15日～26日) (2)学習プリント配信システムによるプリント学習支援(家庭学習の時間の確保) ・印刷配布枚数351,679枚(30年1月末) ・アクセス数9,144回(30年1月末) (3)土曜学習の実施 ・夏季休業中6回実施、延べ95人参加 ・平常10回実施、延べ177人参加(1月末) (1回あたり17人参加)	○	△
									3 教員の授業力向上 (1)指導主事による学校訪問指導(30回) (2)授業力向上研修 ・スーパーティーチャー示範授業による授業力向上研修の実施 国府小:小学3年国語130名 長浜小:小学6年算数90名 ・新しい学びプロジェクト(協調学習)研修会の実施 1回(2日間)、のべ67名参加 ・協調学習公開授業の実施(5回) (3)県外視察研修 ・教員による先進地視察研修及び公開授業 福井市視察研修(5日間、3名) ・公開授業、視察報告会の実施(3回)	○	○	4 教員の授業力向上 (1)指導主事による学校訪問指導(30回) (2)授業力向上研修 ・スーパーティーチャー示範授業による授業力向上研修の実施(7月21日103名参加) (3)県外視察研修 ・教員による先進地視察研修(5日間、3名) ・視察後、公開授業、視察報告会実施(3回) (4)研究指定校の指定 ・新しい学びプロジェクト(協調学習)研究指定校指定(1校) (東大発 教育支援コンソーシアム推進機構との連携) 公開授業2回 ・算数・数学教育研究指定校指定(2校) (教育アドバイザーの配置) 公開授業4回	○	○

「元氣な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
				評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価
13	ふるさと郷育推進	ふるさとを愛する子どもを育てる	実施した内容			実施した内容			実施した内容			実施した内容		
			1 ふるさと郷育推進 (1)「ふるさと郷育」の推進をも踏まえた家庭教育支援のあり方を社会教育委員の会に諮問(4月) ・社会教育委員の会開催(9回) ・答申(12月) 浜田市の家庭教育のあり方～つなぐ つながる 家庭教育支援～ (2)「ふるさと郷育」推進に係る事業の協議 ①郷土の偉人紹介本作成 ・偉人(304人)の抽出(10月) ・編集体制の検討 ②ふるさと再発見事業 ・事例発表会の開催(27年1月) ・事業実施研修会の開催(27年1月) ③つなぐ、つながる事業 ・社会教育委員の会へ答申資料として通学合宿及び三世代交流実績提供 (3)「浜田市ふるさと郷育推進方針について」の作成 ・方針の作成(27年1月) ・浜田市長会、教頭会への説明(27年2月)	○		1 ふるさと郷育推進 (1)郷土の偉人紹介本作成事業 ・浜田市「ふるさとの50人」を選定 ・題名「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」に決定 ・平成28年3月完成予定 ・5,000冊印刷し、一般実費販売(28年3月末) (2)ふるさと再発見事業 ・9中学校区中2校区が実施完了 ・ふるさと再発見事業の検証研修の実施(11月) ・活動報告書の作成(28年2月) (3)つなぐ、つながる事業 ・公民館が行う三世代交流事業を支援(9公民館が実施) ・公民館と地域と学校と家庭が連携する通学合宿を支援(5公民館が実施) (4)ふるさと教育推進事業 ・中学校区内での小学校と中学校の連携による授業を実施 ・教職員を対象としたふるさと郷育研修の実施(8月)	○		1 ふるさと郷育推進 (1)浜田市郷土教材の活用、作成 ①「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」の活用事業 ・小学校4、5、6年生に配付(4月) ・授業等での活用推進 各学期で活用実態調査及び情報提供 ②「(仮称)浜田の歴史」作成準備 ・平成30年度中に小学校6年生に配付するために準備 (2)ふるさと再発見事業 ①ふるさと再発見事業 ・中学生を対象とした地域体験型学習プログラム ・市内26公民館で計画、実施 ②ふるさと地域学習事業 ・大人を対象とした地域体験型学習プログラム ・市内26公民館で計画、実施 ③Hamadaマリン郷育プロジェクト ・浜田の海を学びの場として、「学校教育」と「社会教育」の両面から支援 ・日本財団の助成事業に応募(海と日本プロジェクト) (3)つなぐ、つながる事業 ・公民館が行う三世代交流事業を支援 市内15公民館が計画、実施 ・公民館と地域と学校と家庭が連携する通学合宿を支援 市内4公民館が計画、実施 (4)学校教育における「ふるさと教育」事業 ①ふるさと教育推進事業(島根県事業) ・学校教育における「ふるさと教育」を支援 市内25小中学校が計画、実施 ②自然体験活動推進事業 ・学校教育の中で園児・児童が浜田の海や山等の自然を活用した体験授業を支援 市内4幼稚園、16小学校で計画、実施 ③ネットワーク会議の運営 ・9中学校でのネットワーク会議の開催(学校・地域・家庭の連携協議会議) (5)浜田市民づくり・郷づくり交流会の開催(平成29年2月5日) ・生涯学習課、まちづくり推進課共催	○		1 ふるさと郷育推進 (1)浜田市郷土教材の作成 ①「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」の活用事業 ・小学校4年生に配付(4月)し、授業等で活用 ②「(仮称)浜田の歴史」作成事業 ・平成30年度中に小学校6年生に配付 (2)ふるさと再発見事業 ①ふるさと再発見事業 ・小中学生を対象とした体験型学習プログラムを市内26公民館で実施 ②ふるさと地域学習事業 ・大人を対象とした地域体験型学習プログラムを市内26公民館で実施 ③Hamadaマリン郷育プロジェクト ・日本財団の助成事業に応募(海と日本プロジェクト) ・メインイベント実施(7月17日) 藻塩作り、施設見学、藻塩を使ったおにぎりづくり、カヌーまたはSUP体験に小学生28名参加 ・サブイベント実施(随時) 20事業実施、子ども574名、大人143名参加 (3)つなぐ、つながる事業 ・市内15公民館で三世代交流事業を実施 ・市内2公民館で通学合宿を実施 (4)学校教育における「ふるさと教育」事業 ①ふるさと教育推進事業(島根県事業) ・市内25小中学校で「ふるさと教育」を実施 ②自然体験活動推進事業 ・市内4幼稚園、16小学校で自然体験授業を実施 ③ネットワーク会議の運営 ・9中学校区でのネットワーク会議の開催(学校・地域・家庭の連携協議会議) (5)浜田市民づくり・郷づくり交流会の開催 日時:平成30年2月17日(土) 会場:島根県立大学交流センター 参考:まちづくり推進課と共催	○	

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
				評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価
14	浜田開府400年記念事業	浜田市の歴史・文化の魅力を再認識し、発信する	実施した内容	1 浜田城周辺整備基本方針(案)作成 (1)庁内連絡会議開催	○	実施した内容	1 浜田城周辺整備事業 (1)基本方針作成 ・浜田城周辺整備検討会の設立(11月)会議開催(11月～3月、月1回開催) ・基本方針【城山公園整備】(案)に対するパブリックコメントの実施(28年1月～2月) ・基本方針【城山公園整備】の検討・決定(28年3月決定) ・基本方針【(仮称)浜田歴史神楽資料館整備】の検討	△	実施した内容	1 浜田城周辺整備事業 (1)城山公園整備事業(No.17に詳細記載) ・関係機関等との協議 ・事業実施	○	実施した内容	1 浜田城周辺整備事業 (1)城山公園整備事業 ・関係機関等との協議 ・事業実施(平成31年度完成目標) 城山整備、進入路整備に着手	○
				(2)基本方針作成業務に係る補正予算案を9月議会定例会に上程し、可決	○		(2)城山公園整備事業 ・関係機関との協議	○		2 (仮称)浜田歴史資料館整備事業 ・関係機関等との協議 ・浜田城周辺整備検討会内での検討(視察(8月)、検討会5回開催) ・基本方針【(仮称)浜田歴史資料館整備】(案)に対するパブリックコメントの実施(29年1月～2月) ・(仮称)浜田歴史資料館整備事業説明会(29年2月) ・基本方針【(仮称)浜田歴史資料館整備】の検討・決定	×		2 (仮称)浜田歴史資料館整備事業 ・関係機関、団体、専門家等との協議及び意見交換 ・内部で検討、協議 (設置場所、施設規模、既存施設の活用、ソフト関係等)	△
				(3)委託事業者を11月に決定し、基本方針(案)の作成に向けた検討・協議	○		(3) (仮称)浜田歴史神楽資料館整備事業 ・関係機関との協議	△		3 浜田開府400年イベント事業 ・イベント検討 ・浜田の幕末維新150年講演会(9月) ・浜田開府400年記念プレ講演・座談会【第2弾】(浜田藩ゆかりの地域との交流紹介等)(10月) ・関連イベントの視察活動	○		3 浜田開府400年イベント事業 ・実行委員会の設立(30年2月) ・イベント準備・検討 ・浜田開府400年記念プレ講演・座談会【第3弾】の実施 「江戸時代の浜田と港」 (12月、参加:210名) ・関連イベントの視察活動 北前船寄港地フォーラム参加	○
				(4)基本方針(案)の作成 以下の3項目に取り組む ・浜田城周辺整備事業 ・(仮称)浜田歴史館整備事業 ・(仮称)石見神楽館整備事業 (御便殿活用) ⇒議論が不十分であり、年度内作成は見合わせ	×									

「元氣な浜田」をつくるためのロードマップ

Ⅳ：自然環境を守り活かすまち

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
15	市民のごみ排出負担の軽減	分別の簡素化(平成27年度から変更)	実施した内容			実施した内容			実施した内容			実施した内容		
			1 ごみ袋の簡素化(5種類13サイズ) (1)県内他市の状況調査 ・県内他市ごみ袋サンプル収集 ・状況聞き取り及び意見交換 現行のごみ袋の種類、分別における問題点等を整理 (2)住民説明及び意見聴取 環境清掃指導員説明会において方針説明及び意見聴取し、環境清掃対策審議会へ報告 (3)環境清掃対策審議会における検討 ・審議会開催(計3回) ・市長への中間報告を受けパブリックコメント中止 ・7月に審議会から「簡素化については、慎重に対応すべき」との答申を受ける ⇒ごみ袋の簡素化中止を決定	○		1 分別の簡素化を目的とした廃プラスチック類の焼却について (1)焼却処理に向け協議及び他市視察 ・江津市との協議(6月) ・邑智クリーンセンター、松江市、萩市を視察(7月) ・浜田地区広域行政組合及び江津市と3者協議(8月～9月) ⇒廃プラの焼却試験については、地元波子地区住民の同意が必要 (2)安全管理委員会の開催(10月) ・廃プラ焼却試験について大筋合意 (3)地元住民説明及び意見聴取 ・波子地区各種団体長説明会(10月) ・波子地区住民から意見聴取(11月) ・波子地区住民説明会(28年1月末) ・地元波子地区住民の同意 →波子連合自治会長と確認書締結(28年3月22日)	○		1 分別の簡素化を目的とした廃プラスチック類の焼却について (1)廃プラスチック類の焼却試験の実施 ①地元波子地区住民の同意を得た後実施(29年3月まで) ・地元波子地区住民の同意【再掲】 - 波子連合自治会長と確認書締結(28年3月22日) ・廃プラスチック類焼却試験実施(4月28日～29年3月) ②測定結果等のデータ収集 ・焼却試験前周辺環境調査(4月21日～27日) 全項目において、監視基準・環境基準を下回っている ・焼却試験期間中周辺環境調査(11月8日～14日) 全項目において、監視基準・環境基準を下回っている ・排ガス測定11回実施(6月定期点検を除く毎月) - いずれの測定でも排出基準・自主規制値を下回っている ③測定結果等、地元へ経過報告 ②に記載した調査、測定の結果を、毎回地元波子地区住民に回覧し、経過報告 (2)焼却による効果等を市民へ啓発 ・平成29年3月末の検証結果に基づき、次年度に浜田市ホームページ等による広報活動を実施	○		1 分別の簡素化を目的とした廃プラスチック類の焼却について (1)廃プラスチック類の焼却を継続実施(広域行政組合) (2)廃プラスチック類の焼却試験の検証(広域行政組合) ・焼却試験結果の検証 ・地元へ試験結果報告(5月24日) ・維持補修費、用役費の検証 ・波子連合自治会と焼却継続確認書締結(8月31日) (3)ごみ分別方法の方針決定(5月～9月) ・分別品目の調整 ・分別早見表の見直し ・燃やせないごみ袋の名称見直し「燃やせないごみ」の下段に「金属・陶器・ガラス・電気製品」を追記 (4)焼却による効果等を市民へ啓発 ・浜田市ホームページ等による広報活動(7月～) (5)市民への周知(10月～) ・広報、チラシ、ケーブルテレビ、環境清掃指導員への説明会 ・新分別早見表を広報2月号と一緒に全戸配布	○	

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

V：生活基盤が整った快適に暮らせるまち

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
16	公共交通の充実 (項目名変更)	市民の生活を支える交通体系の構築	実施した内容 1 支援が必要な地域での高齢者補助制度の構築 (1)制度の準備(5～9月) ・浜田市地域公共交通活性化協議会で検討、決定 (2)「敬老乗車券交付事業」の試行開始(10月) ・対象者へ申請書、チラシの送付 ・出張販売 (3)利用実態調査・効果の検証 ・初回申請時のアンケート調査 ・3か月経過後の追跡調査(27年1月)	○	○	実施した内容 1 支援が必要な地域での高齢者補助制度の構築 (1)「敬老乗車券交付事業」の試行実施(4月～9月) (2)利用実態調査・効果の検証 ・利用状況の集計(10月～11月) ・最終アンケート調査(12月～1月) (3)平成28年度以降の支援制度の拡大の検討 ・対象地域を全市へ拡大 ・上限を8冊から10冊へ拡大 ・販売額を500円から1,500円へ変更	○	○	実施した内容 1 交通弱者にやさしい移動手段の確保 (1)「敬老乗車券交付事業」の本格実施 ①販売開始(7月1日開始) ・広報はまだ7月号等での事業周知 ・市民ロビーに特設窓口設置 (7月1日～15日) ・公民館・医療機関等での出張販売実施 ・申請者3,572人、交付冊数23,254冊、交付率24.7%(29年3月末現在) ②高齢者への運転免許返納支援策実施(29年1月4日開始) ・敬老乗車券5冊を返納者へ無料交付 (2)地域との連携による移動手段の確保 ・コミュニティワゴン導入に向けた地元協議【対象地区】三隅町井野地区、大麻地区 (3)高校生の通学に対する支援 ・市内学生が市内高等学校へ通う場合の定期補助制度の導入(4月1日) 申請数65件、487,300円 (29年3月末現在)	○	○	実施した内容 1 交通弱者への移動支援 (1)「敬老乗車券交付事業」の継続実施 ①70歳以上の高齢者に1冊3千円分の乗車券を年間10冊まで半額で販売 ※30年1月末現在 申請者 2,986人 交付冊数 20,725冊 交付率 19.8% ②「運転免許自主返納支援事業」の継続実施 ・敬老乗車券5冊を返納者へ無料交付 ※30年1月末現在 申請者 222人 (2)地域との連携による移動手段の確保 ・コミュニティワゴン導入 ・三隅町井野地区…試行 (30年4月本格実施予定) ・大麻地区 …7月本格実施 (3)高校生の通学に対する支援 ・市内学生が市内高等学校へ通う場合の定期補助事業の継続実施 ※30年1月末現在 申請数34件 213,700円	○	○
			2 地域公共交通再編 (1)島根県立大学の協力を得て、地域公共交通の再編研究 ・県立大学教員との協議・検討(コンサルへ調査研究・検討業務を委託) ・路線バス乗降調査(11月) ・市内高校生アンケート調査(27年1月) (2)再編方針の検討 ・県立大学教員及びコンサルからの提案を基に平成28年度以降の交通再編方針を検討	○	△	2 地域公共交通再編 (1)地域公共交通再編計画の策定(28年1月) ・策定主体: 浜田市地域公共交通活性化協議会(協議会3回、幹事会1回開催) ・パブリックコメント実施(12月)		○	2 公共交通ネットワークの再構築 (1)市街地路線の見直し ・平成29年度の路線再編に向けたバス事業者との調整 長沢瀬戸ケ島線の再編を決定 (2)幹線交通と地域内交通の再編 ・瑞穂線短縮に伴う旭自治区の交通再編【完了】 石見交通運行区間の短縮、市生活路線バス及び予約型乗合タクシーによる移動手段の代替	○	○	2 公共交通ネットワークの再構築 (1)市街地路線の見直し ・長沢瀬戸ケ島線他バス路線の再編 平成30年3月 運行開始予定 (2)市内バスマップの作成【新規】 ・地域公共交通活性化協議会へ委託 平成30年3月 完成予定 (3)平成30年度以降の生活路線バス・予約型乗合タクシー運行契約に向けた、仕様及び路線区域の見直し 平成30年1月 運行契約完了	○	○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
			評価	総合評価	評価	総合評価	評価	総合評価	評価	総合評価
17	充実した都市基盤の整備 (項目名変更)	魅力ある都市づくり	実施した内容		実施した内容		実施した内容		実施した内容	
			1 瀬戸ヶ島周辺整備 (海、お魚を活かした魅力ゾーン) No.1「水産業の活性化」参照	△	1 瀬戸ヶ島周辺整備 No.1「水産業の活性化」において瀬戸ヶ島埋立地の活用を明記のため削除	-	1 城山公園整備 (1)関係機関等との協議 ・公園区域の変更等 地元説明会(12月) 変更図書の縦覧(29年1月13日～27日) 都市計画審議会(29年2月) 変更告示(29年3月)	○	1 城山公園整備 (1)関係機関等との協議 ・社会資本整備総合交付金要望等 交付決定(5月) ・保安林内作業許可申請 作業許可(4月)	○
			2 浜田城周辺整備 (文化・歴史ゾーン) No.14「浜田開府400年記念事業」参照	△	2 浜田城周辺整備 No.14「浜田開府400年記念事業」において城山公園整備として分割 (1)関係機関等との協議 ・事業手法等協議(国、県)	○	(2)事業実施 ・緑の基本計画作成 策定委員会開催(11月、29年1月、3月) パブリックコメント実施 (29年1月27日～2月26日) 公表及び知事通知(29年3月) ・発掘調査、詳細設計(希少動植物調査を含む)、用地測量 ・中央要望(12月)	○	(2)事業実施 ・発掘調査 ・用地取得、園路、進入路整備 用地取得完了(8月) 園路工事発注(10月) 進入路整備工事発注(9月)	○
			3 浜田駅周辺整備 (市民が集う商業賑わいゾーン) ・整備構想立案 ・関係機関協議 ・一部用地取得(君市踏切周辺)	○	3 浜田駅周辺整備 (1)南北道路整備 ・詳細設計 ・JRとの協議 ・説明会の開催 (2)賑わいゾーンの創出 ・土地利用検討 ・JT跡地取得(10月) ・JT跡地利用方針決定(12月)	△ ○	2 浜田駅周辺整備 (1)南北道路整備 ・詳細設計継続 ・関係機関協議実施(8回) ・議会へ整備方針報告(5月25日) ・地元説明会の開催(5月27日) (2)賑わいゾーンの創出 ・JA跡地利用検討 ・JT跡地利用検討、活用 ⇒県営住宅用地、プロポーザル用地決定 公共用地活用検討会議開催(7月) 活用公募型プロポーザル開始(8月) プレゼンテーション及びヒアリング(12月) 審査会(29年1月) 最優秀提案者発表及び契約手続き	△ ○	2 浜田駅周辺整備 (1)南北道路整備 ・関係機関協議(7回) ・踏切詳細設計(30年2月予定) ・道路詳細設計発注(9月) ・JA倉庫解体発注(10月) (2)賑わいゾーンの創出 ・JA跡地利用(代替地等)検討 ・JT跡地利用 県営住宅用地用地として、浜田市土地開発公社から県へ売却(30年3月) (3)浜田駅前広場整備 ・ホテルほか関係機関協議(交渉継続) 市有地売却(30年2月) ・年度計画策定(計画策定済) ・補正予算計上 鑑定料外(9月議会) 測量設計業務外 (債務負担行為、12月議会)	△ ○ ○
			追加: 4 市役所周辺整備(シビックコア) (1)関係機関協議、要望 ・国公有財産最適利用連絡会の開催 (財務省中国財務局・浜田市) ・国土交通省中国地方整備局営繕部と協議			○	3 市役所周辺整備 (1)関係機関協議、要望 ・国公有財産最適利用連絡会(財務省中国財務局、浜田市)の開催(5月、11月)	○	3 市役所周辺整備 (1)関係機関協議、要望 ・公共施設最適利用検討会(庁内)の開催(未開催) ・国公有財産最適利用連絡会(財務省中国財務局、浜田市)の開催(未開催)	△

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

Ⅵ：安全で安心して暮らせるまち

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
18	災害に強いまちづくりの推進	安全で安心なまちづくり	実施した内容			実施した内容			1 住民への情報周知手段の確保・充実 (1) 屋外拡声子局数の増設(浜田自治区) ・28年度当初42局→46局(4局増) (2) 防災防犯メール登録者数の増 ・広報、各種集会等でのPR 広報はまだ6月号、29年2月号 防災出前講座、島根県立大学新入生説明会、BB大鍋フェスティバル、各支所産業祭などで登録推進PR ・28年度当初6,929件→7,841件(29年3月末現在)	○		1 住民への情報周知手段の確保・充実 (1) 屋外拡声子局数の増設(浜田自治区) ・29年度当初46局→51局(5局増) (2) 防災防犯メール登録者数の増 ・広報、各種集会等でのPR 県立大学新入生説明会でPR(4月) 総合防災訓練でPR(6月) BB大鍋フェスティバル、各支所(11月)産業祭などでPR ・29年度当初7,841件→8,452件(30年1月末現在)	○	
									2 地域防災力の向上 (1) 自主防災組織の組織率の増加 ・補助金を地域づくり振興事業補助金に統合(4月) ・28年度当初組織率51.4% →65.8%(29年3月末現在) ・補助金交付額 1,092,786円(5団体)(29年3月末現在) (2) 防災出前講座の実施(目標60回) ・89回開催(29年3月末現在)	○		2 地域防災力の向上 (1) 自主防災組織の組織率の増加 ・地域づくり振興事業補助金による育成支援→ 6団体1,599,417円(30年1月末現在) ・組織率65.8%(6団体増)(30年1月末現在) (2) ハザードマップ等の作成 ・L2津波、想定最大規模降雨の浸水想定区域におけるハザードマップの作成、津波避難誘導板の設置準備(平成30年作成・設置) 浜田自治区各公民館で住民説明会開催(12月) (3) 防災出前講座の実施 ・目標70回開催 →76回(30年1月末現在)	○	
									3 災害応急活動体制の整備 (1) 総合防災訓練参加者数の増加 ①住民参加型の防災訓練の実施(6月12日) ・旭運動公園にて実施 ・旭中学校生徒約60名参加 ・6月を防災訓練強化月間と位置付け、自主防災組織による避難訓練や町内会行事に合わせた情報伝達訓練等(合計約1,000人参加)実施の支援		△	3 災害応急活動体制の整備 (1) 防災訓練参加者数の増加 ①住民参加型の防災訓練の実施 ・総合防災訓練を瀬戸ヶ島埋立地にて実施(6月11日、合計約3,800名参加) ・6月を防災訓練強化月間と位置付け、自主防災組織による避難訓練や町内会行事に合わせた情報伝達訓練等の実施の支援 ・L2津波浸水想定区域内の住民の避難訓練の実施(瀬戸ヶ島町等で実施)		○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

Ⅶ：協働による持続可能なまち

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
19	浜田那賀方式自治区制度の見直し	新制度の方針決定及び実施	実施した内容	1 浜田那賀方式自治区制度の見直し (1) 自治区制度公聴会 〔時期〕 7～8月 〔場所〕 全8会場 ・浜田自治区 4会場 ・金城自治区 1会場 ・旭自治区 1会場 ・弥栄自治区 1会場 ・三隅自治区 1会場	○	実施した内容	1 浜田那賀方式自治区制度の見直し、方針決定 (1) 今後の自治区制度について(最終案) ※32年3月まで延長、自治区長処遇等の見直しの協議 ・地域協議会との意見交換(4月) ・議会特別委員会(4月) ・最終案を庁内決定(5月) ・自治区設置条例等の改正(6月議会で議決) ・地域振興基金運用方法の協議・決定(4～9月)	○	○	実施した内容	自治区制度の実施 (32年3月末まで延長)			
				(2) 議会との意見交換 ・議会特別委員会(10月)	○									
				(3) 「今後の自治区制度についての方針」の公表 ・議会全員協議会(11月) ・地域協議会合同会議(11月)	○									
				(4) 「新自治区制度等」についての修正と説明(案)」の意見交換 ・地域協議会合同会議(27年1月) ・議会全員協議会(27年2月)	△									

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
				評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価
20	まちづくりの推進	市民主体の地域づくりの推進	実施した内容			実施した内容			1 活力ある地域コミュニティの形成 (1) 地域づくりの意識醸成 ・人づくり・郷づくり交流会開催 (29年2月5日) 公民館との共催による地域課題の解決に向けた取組の実践発表 ・市民憲章推進大会(10月1日)におけるまちづくり記念講演の実施 ・広報紙、市ホームページ等での情報提供 まちづくり総合交付金活用事例集の掲載 (2) 住民自治組織の設立支援 ・「地区まちづくり推進委員会」の設立促進 4団体設立(合計32団体) ・各自治区のまちづくり連絡会の設立促進 金城(1回)、旭自治区(2回)連絡会開催	△		1 活力ある地域コミュニティの形成 (1) 地域づくりの意識醸成 ・人づくり・郷づくり交流会開催(30年2月) 公民館との共催による地域課題の解決に向けた取組の実践発表及び先進事例の学習 ・広報紙、市ホームページ等での情報提供 市民協働活性化支援事業及び課題解決特別事業報告集の掲載 ・防災意識の高揚と直結した地域コミュニティの推進 各支所へ防災担当職員を配置し、自主防災組織の設立を支援 (2) 住民自治組織の設立支援 ・「地区まちづくり推進委員会」の設立促進 1団体設立(合計33団体) ・各自治区のまちづくり連絡会の設立促進 金城(2回)、旭自治区(1回)連絡会開催	○	△
									2 地域コミュニティへの支援の充実 (1) 活動支援 ・まちづくり総合交付金事業の実施 基礎交付額 133団体:86,521,242円 課題解決特別事業交付額 19団体:10,144,800円 ・各種補助事業による支援 市民協働活性化支援事業への補助 6団体:1,730,000円 地域づくりへの助成 集会所整備 34件 5,145,103円 防犯灯設置 219基 10,762,535円 (2) 人材育成 ・地域リーダー育成研修会の実施 12月15日～16日 三次市、38人参加 ・研修後のワーキング会議 29年1月20日 30人参加	○		2 地域コミュニティへの支援の充実 (1) 活動支援 ・まちづくり総合交付金事業の実施 基礎交付額 135団体:87,713,884円 課題解決特別事業 16団体:9,890,160円 ・各種補助事業による支援 市民協働活性化支援事業の実施 9団体:988,300円(30年1月22日現在) 地域づくりへの助成 集会所整備 46件 7,858,703円 防犯灯設置 299基 12,462,819円 (30年1月末現在) ・職員の地域活動への参加促進 職員の地域活動表彰(3名) (2) 人材育成 ・地域リーダー育成研修会の開催(12月) 会場:益田市、40名参加 ・研修後のワーキング会議(30年2月)	○	○
									3 市民の声を生かした地域づくりの推進 ・自治区ごとの地域協議会の開催 実情に応じ、2回～6回の範囲で開催 ・地域協議会の合同会議を開催(1回) ・自治区合同の「地域協議会正副会長連絡会議」の開催(3回) ・地域づくりに関する意見集約の実施 (29年2月中旬頃から実施)			3 市民の声を生かした地域づくりの推進 ・自治区ごとの「地域協議会」の開催 実情に応じ、3回～6回の範囲で開催 ・自治区合同の「地域協議会正副会長連絡会議」の開催(1回) ・地域づくりに関する意見集約の実施 地区まちづくり推進委員会へヒアリング		○

「元氣な浜田」をつくるためのロードマップ

市政運営に係る重要な事項

No.	項目	目的・目標	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
21	萩・石見空港 東京2便化の 存続	利用者の拡大	1 萩・石見空港の利用促進 (1) サポーター企業数の登録推進 - 登録企業数 市内236社(27年3月末) (2) 浜田市独自の利用促進補助金の導入 - 申請状況 1,323人、9,825千円(27年3月末) (3) 制度のPR - ポスター作成 - チラシを作成し、新聞折り込み配布 - ケーブルテレビ番組で市長による利用呼びかけ 【搭乗実績】(目標 120,000席) - 搭乗者数 110,199席 - 達成率 91.8%	○		1 萩・石見空港の利用促進 (1) サポーター企業数の登録推進 - ポスター・チラシを作成、新聞折り込み - ケーブルTV番組による制度PR - 登録企業数 市内311社(28年3月末) (2) 利用促進補助金の継続 - 申請状況 3,646人、24,341千円(28年3月末) (3) 利用拡大促進協議会の助成制度の拡充 - 助成制度の拡充 - 運賃助成キャンペーン「夫婦満点(年齢合計100歳以上の夫婦への助成)」の実施(28年3月) ⇒ 東京便2便化継続決定(平成28～29年度) 【搭乗実績】(目標 127,000席) - 搭乗者数 122,472席 - 達成率 96.4%	○		1 萩・石見空港の利用促進 (1) サポーター企業数の登録推進 - ケーブルテレビ番組による制度PR - 登録企業数(目標: 市内500社) 市内369社(29年3月末) (2) 利用促進補助金の継続 - 制度のPR - 申請状況(目標3,700人) 3,731人、18,654千円(29年3月末) 【補助内容】 65歳以上・サポーター企業 6,000円 65歳未満 4,000円 - 片道利用者(拡充) 2,000円又は3,000円(要件による) - 大学・専門学校生(拡充) 2,000円(片道)又は4,000円(往復) (3) 利用拡大促進協議会の助成制度の拡充 - サポーター企業の範囲拡大 - ツアー企画奨励金の導入 - 修学旅行者への対象拡大 (4) 市内大会等での利用促進の周知活動 - 高校総体参加者等へのPR(7月) 【搭乗実績】(目標 133,000席) - 搭乗者数 119,482席 - 達成率 89.8%	△	△	1 萩・石見空港の利用促進 (1) サポーター企業数の登録推進 - ケーブルテレビ番組による制度PR 7月、11月、30年1月の3回 - 登録企業の拡大 目標: 市内500社 ⇒ 市内436社(30年1月末現在) (2) 利用促進補助金の継続 【補助内容】 65歳以上・サポーター企業6,000円(往復) 65歳未満 4,000円(往復) - 大学・専門学校生 4,000円(往復) (保護者が浜田市内在住の場合含む) ※片道利用の場合は、上記の半額 ①制度のPR - 街頭PR - 運賃助成制度のチラシ配布(島根県立大学、市内小中高校、リハビリテーションカレッジ島根、浜田市退職者会、市内高校同窓会、浜田市出身者会など) - 運賃助成制度のチラシ新聞折込 - ケーブルテレビ番組によるPR【再掲】 7月、11月、30年1月の3回 ②申請状況(目標3,700人) 3,522人、17,948千円(30年1月末現在) (3) 利用拡大促進協議会の取組 ①サポーター企業の範囲拡大 - 首都圏のサポーター企業を募集 - 首都圏の企業によるビジネス利用の拡大 ②ツアー企画奨励金の導入 - 旅行会社に対し、ツアーの席数に応じて実施 ③修学旅行者への対象拡大 - 往復2万円の助成(拡大なし) - 東京方面への修学旅行に利用呼びかけ ④快適アクセス事業の見直し - 乗り合いタクシーの検討 ⑤首都圏からの誘客促進 - 団体旅行企画商品造成・PR活動 - 圏域の魅力発信事業 ⑥アウト対策 「2人で往復1万円」などの各種運賃助成事業の実施 ⇒ 東京便2便化継続決定(平成30～31年度) 【搭乗実績】(目標 142,000席) - 搭乗者数 119,307席(30年1月末現在) - 達成率 84.0%(30年1月末現在)	△	○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

No.	項目	目的・目標	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
				評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価		評価	総合評価
22	島根県立大学に学部増設の提案	新学部等の設置と定員増(平成27年度から変更)	実施した内容			実施した内容			実施した内容			実施した内容		
			1 島根県立大学に学部増設の提案 (1)提案内容の検討 ・島根県立大学との協議 ・島根県との協議 ・市議会説明 ・地元選出県議説明 ・県内市長・周辺町長説明 ・関係団体説明 (2)関係者に対し提案 ・島根県立大学支援協議会で「地域政策学部増設」要望書を承認 ・島根県知事に要望(8月) ・県立大学理事長に要望(8月)	○	○	1 島根県立大学の学部増設に向けた取組 ・島根県立大学浜田キャンパスの検討状況の把握と早期実現への協力 ・引き続き要望活動 ・島根県立大学浜田キャンパス内の将来構想検討委員会から学長に答申(平成27年度中→延期)		○	1 島根県立大学の学部増設に向けた取組 ・島根県立大学浜田キャンパス内の将来構想検討委員会から学長への答申(6月) ・島根県立大学により「浜田キャンパス将来構想検討報告書」に関する意見募集(9月～10月) ・島根県立大学の法人段階での検討について状況の把握と早期実現への協力		△	1 島根県立大学の学部増設に向けた取組 ・島根県立大学の検討結果を踏まえ、島根県の検討状況の把握と早期実現への協力、働きかけの強化 ・「中期目標検討のための有識者会議」【島根県設置】への参画(市長)(5月～11月) ・島根県立大学支援協議会への学部増設再要望の提案(7月)⇒承認 ・島根県立大学理事長に対し再要望(8月) ・有識者会議が県知事に提言書提出(11月)		○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

自治区別計画

【金城自治区】～農業と観光によるまちづくり～

No.	項目	平成26年度		総合評価	平成27年度		総合評価	平成28年度		総合評価	平成29年度		総合評価
			評価			評価			評価			評価	
23	1 農業振興	1 農業振興 (1)元谷団地の開発 ①事業計画作成 ②用地取得(75ha)	○	○	1 農業振興 (1)元谷団地の開発 ①事業着手 建築物撤去(市事業)	○	○	1 農業振興 (1)元谷団地の開発 ・土地造成等35ha(県営事業) ・畑地35haの圃場整備着工(10月) ・入植者募集(29年1月10日～2月24日)	○	○	1 農業振興 (1)元谷団地の開発 ・29年度事業(約12ha)着手・一部完了 ・入植者との補助事業導入協議 ・強い農業づくり交付金事業(ハウス10棟)	○	○
		(2)農業サポート経営体の設立 ①みどりファームかなぎ設立 (27年1月)	○		(2)農業サポート経営体を核にした農地 保全 ①みどりファームかなぎ ・作業受託 3ha ・担い手との連携 防除40ha	○		(2)農業サポート経営体を核にした農地保全 ①みどりファームかなぎ ・作業受託 6.9ha ・担い手との連携 防除 36.2ha ②サポート経営体、農事法人等の支援 ・農業用機械・設備整備補助 農業振興対策費補助金 実績 13件 4,995千円 受益面積 50ha ・鳥獣被害防止補助(農業振興サポート 事業から移行) 農作物等獣被害防止対策事業 実績34件 1,380千円 受益面積 18ha	○		(2)新開団地の維持管理 ①市管理農地(未貸付農地)の維持管理 ・草刈による保全管理実施 ②支援センターと連携した入植者の経営改 善支援 ・新規就農者と自立について相談 ・就農計画作成支援	○	
	実施した内容	(3)農業振興サポート事業 ①農業用施設整備補助 ②鳥獣被害防止補助	○	○	(3)農業振興サポート事業 ①農業用施設整備補助 ・27件 9,044千円 ②鳥獣被害防止補助 ・29件 956千円 ※27年度をもって事業終了 全市基金事業へ移行	○	○	(3)農業振興サポート事業 ①農業用施設整備補助 ・27件 9,044千円 ②鳥獣被害防止補助 ・29件 956千円 ※27年度をもって事業終了 全市基金事業へ移行	○	○	(3)農業サポート経営体を核にした農地保全 ①みどりファームかなぎ ・作業委託 14.6ha ・担い手との連携 防除 33.8ha ②サポート経営体、農事法人等の支援 ・農業用機械・設備整備補助 17件 4,996千円 受益面積 37ha ・鳥獣被害防止補助 26件 1,115千円 受益面積 16ha	○	○
		(4)県営基盤整備(実証)伊木地区 ①用水路パイプライン化、排水路 暗渠化、畦畔芝生化 ②老朽溜池整備	○		(4)県営基盤整備(実証)伊木地区 ①用水路パイプライン化 ・900mのうち400m実施 ②排水路暗渠化 ・排水路の調査 ③畦畔芝生化 ・除草作業 1,500㎡ ④老朽溜池整備 ・溜池調査を実施	○		(4)県営基盤整備(実証)伊木地区 ⇒完了 ①用水路パイプライン化 500m ②排水路暗渠化 100m ③畦畔芝生化 種子吹付1,500㎡ ④老朽溜池整備 ・県営事業採択に向けた要望 県営基盤整備事業とは別メニュー(団体 営事業)を利用して平成29年度に実施	○		(4)農産物の生産拡大、ブランド化 ①ビオーネの生産拡大 ・根域制限栽培の実証試験 ・金城町ふどう生産者協議会との協議 ・リースハウス事業導入検討 ②黒米・黒大豆等の生産推奨 ・黒米用コンバイン、黒大豆用色彩選別 機の整備補助(4月) ・まちづくり委員会、NPOとの協議 温泉もやし栽培実験施設建設 栽培実験開始	○	
	実施した内容	(4)県営基盤整備(実証)伊木地区 ①用水路パイプライン化、排水路 暗渠化、畦畔芝生化 ②老朽溜池整備	○	○	(4)県営基盤整備(実証)伊木地区 ①用水路パイプライン化 ・900mのうち400m実施 ②排水路暗渠化 ・排水路の調査 ③畦畔芝生化 ・除草作業 1,500㎡ ④老朽溜池整備 ・溜池調査を実施	○	○	(4)農産物の生産拡大、ブランド化 ①ビオーネの生産拡大 ・根域制限栽培の実証試験 ・金城町ふどう生産者協議会との協議 ・リースハウス事業導入検討 ②黒米・黒大豆等の生産推奨 ・黒米用コンバイン、黒大豆用色彩選別 機の整備補助(4月) ・まちづくり委員会、NPOとの協議 温泉もやし栽培実験施設建設 栽培実験開始	○	○	(4)農産物の生産拡大、ブランド化 ①ビオーネの生産拡大 ・根域制限栽培の実証試験(継続) 導入件数 1件 受益面積 0.1ha ・金城町ふどう生産者協議会との協議 事業内容について意見聴取 ・リースハウス事業導入(JA) 導入件数 4件 受益面積 0.4ha ②黒米・黒大豆等の生産推奨 ・産地化拡大 黒大豆 0.4ha 黒米 0.2ha ・まちづくり委員会、NPOとの協議 NPO事業内容について協議及び意見 交換を実施 ・温泉もやし栽培実験 栽培実験を継続実施	○	○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

2 観光交流	2 観光交流 (1) 美又温泉の再生 ① 温泉旅館のおもてなし向上対策 ② モデル旅館選定及び取組開始 ③ 温泉街路比較設計 ④ 景観まちづくり住民会議の発足 ⑤ 公的施設の方向性検討 ⑥ 歓迎塔看板リニューアル ⑦ 美又再開発用地の取得 ⑧ (株)ポーラとのコラボ企画	△	2 観光交流 (1) 美又温泉の再生 ① 温泉旅館のおもてなし向上対策 ・個別指導(モデル旅館3軒) ② モデル旅館取組を他の旅館へ波及 ・中間報告会開催(28年3月) ③ 温泉街路施工 ・石畳舗装200m、足湯1基 ※事業繰越(28年5月完成予定) ④ 景観まちづくり合意形成 ・住民協定の締結(28年1月) ⑤ 公的施設の方向性検討 ・検討委員会の開催 5回 ・中核施設、温泉会館のあり方、市有地の利活用の検討 ⑥ (株)ポーラとのコラボ企画 ・美肌食堂に食材提供 1回 ・ポーライベントでのPR 3回 ⑦ 美又温泉保養センター直営 ・4月25日から温泉旅館組合に委託	△	2 観光交流 (1) 美又温泉の魅力向上 ① モデル旅館の取組支援と成果の波及 ・個別指導(モデル旅館3軒) ・金城観光ホテル事業導入(18,030千円) 島根県ヘルスケアビジネス先進モデル構築支援事業、しまね地域資源産業活性化基金助成事業、小規模事業者持続化補助金 ・取組報告会の開催(29年3月) ② 美又温泉エリアの整備 ・温泉街・周辺の景観形成補助 2件、8,038千円(補助金3,873千円) ・集客イベントの開催 美又温泉祭り(6月) ・中核的施設の検討 美又温泉公的施設検討会議の報告を踏まえ、中核施設の整備について検討 ③ 美又温泉国民保養センター直営 ・引き続き温泉旅館組合に委託	○	2 観光交流 (1) 美又温泉の魅力向上 ① モデル旅館の取組支援と成果の波及 ・金城観光ホテルの事業導入 旅館再生ランドデザイン策定 商工会系事業導入 ターゲット・コンセプトの再設定 宿名・キャッチコピーの検討 改修事業費を含めた経営計画策定 ・かめや旅館新館の建設支援 クラウドファンディング導入支援 「くるみの木」による指導 ② 美又温泉国民保養センター(中核的施設)の整備検討 ・温泉旅館組合に業務委託【継続】 ・整備方針決定 ⇒温泉旅館組合において活用策検討 中、市はサポート ③ 市有地(埋立地)の活用検討 ・保養センター整備協議の中で、市有地の活用についての意見聴取を実施	△
	(2) 交流人口の拡大 ① 金城スマートICでの観光イベント ② 全国障害者馬術大会開催 ③ ライディングパーク研修棟改修	○	(2) 交流人口の拡大 ① きんたの里大規模修繕 ・外観、空調ほか修繕 ② パラリンピックキャンプ地の誘致検討 ・検疫及びキャンプは東京馬事公苑で同時実施されるため、誘致断念 ③ LAGP2015HamadaRound(ランバイク大会)開催(8月)	○	(2) 交流人口の拡大 ① きんたの里の大規模修繕 ・ボイラ更新(2基) ・太陽熱ソーラーシステム導入(29年2月) ② 主要施設のネットワークの構築 ・(仮称)支配人会議の開催による情報共有 浜田市観光協会金城支部会議開催(毎月1回) パンフレット作成(29年3月) ③ 民泊・ツーリズムの推進 ・ゆめのねむら都市農村交流推進協議会との連携 協議会が取り組む補助事業に係る中間評価会議時の意見交換	○	(2) 交流人口の拡大 ① 主要施設のネットワークの構築 ・「美肌通りズム(食+温泉+乗馬)」の取組をモデルとした施設間の連携強化 ライディングパーク等の施設と連携し、今後、取り組み予定 ② 民泊・ツーリズムの推進 ・ゆめのねむら都市農村交流推進協議会との連携 事業内容について協議、意見交換実施 民泊交流ロード 登録農家民泊推進30軒 ③ おもてなし向上取組支援事業 ・ハード・ソフト事業補助(地域振興基金) ハード事業 交付決定額 (5件 2,250千円) 観光農園 園内手摺り ほか ソフト事業 交付決定額 (2件 481千円) 新旅館建設 設計費用 ほか	○
	(3) パークゴルフ場の研究調査 ① 先進地視察 ② 美又温泉との連携協議	△	(3) パークゴルフ場整備の検討 ・旭自治区との連携 ・パークゴルフ場の視察	△	(3) パークゴルフ場整備の検討 ・旭自治区との連携 ・仮設コースの検討	△	(3) パークゴルフ場整備の検討 ・仮設コースの設置(民間) 設置協議・許可(7月) 試行実施(8月～12月) 利用者へのアンケート実施(回答数22名) ⇒設置に向けて肯定的な意見がある一方、「全く楽しくなかった」、「やりたくない」という否定的な意見もあり、賛否両論 ・29年度中に方針決定 ⇒課題を整理し、整備の実施は困難と判断、整備計画中止	△

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

3 まちづくり	○	3 まちづくり (1)個性を活かしたまちづくり活動の推進 ①地域提案型チャレンジ事業補助金 ・地域づくり活動 … 5団体(3,000千円) ・条件整備 … 1団体(550千円) ・組織・人材育成 … 2団体(600千円) ・検討委員会(12月)	○	3 まちづくり (1)個性を活かしたまちづくり活動の推進 ①地域提案型チャレンジ事業補助金 (23～27年度) ・地域づくり活動 …5団体(2,917千円) ・条件整備 …3団体(19,071千円) ・組織・人材育成 …5団体(1,350千円) ・検討委員会(3月) ②ポストチャレンジ事業補助金 ・次期制度の検討 連携活動の推進を目的として 「連携活動支援事業補助金」を新設 ③金城シェアハウス整備補助 ・地元運営委員会設立 ・シェアハウス改修補助 15,000千円 ・入居県大生募集 6名	○	3 まちづくり (1)協働、連携による活動の推進 ①地区まちづくり計画の更新(4組織) 美又湯気の里、今福、雲城、縁の里 ※久佐の計画期間(25～34年度) ②連携活動の推進 ・まちづくり連絡会の取組協議 連絡会開催(9月)、協議(29年1～3月) ・まちづくりフォーラムの開催(29年3月) ・美又「農山漁村(むら)の宝」認定記念 イベント開催(6月)、美又温泉祭り(6月) ③シェアハウス県大生との連携 ・地域サポート協議会の設立(5月) ・「かなぎ学習会」の実施支援(6月～) 毎週土曜日、2コマ(2時間) 入会生徒数 11人 保護者説明会、懇談会 3回実施 ・まちづくり活動参画支援 連合自治会議 (さざんか祭り、今田よりん祭) 地域交通安全街頭指導	○	3 まちづくり (1)協働、連携による活動の推進 ①地区まちづくり計画の推進 地域活動を支援する補助金の活用 ・活動拠点施設の整備等の経費補助 ・地域団体等との連携活動の経費補助 (イベント開催、先進地視察等) ・空き家等利活用促進に対する補助等 ②連携活動の推進 ・まちづくり連絡会の取組支援 連絡会開催(6月、8月) ・地域団体の連携支援 各連絡会、諸団体との連携 ③シェアハウス県大生との連携 (30年1月末現在) ・「かなぎ学習会」の実施支援(6月～) 開設日数:35日 入会生徒数:9人 土曜25日 月曜10日(試行、夜間・11月～30年1月) ・教育を通じた地域振興シンポジウム開催(9月) 講演、活動報告会、アンケート調査等 ・中学生の県立大学見学会を実施 (6名参加、12月) ・まちづくり活動の参画支援 美又温泉祭り(6月)、妖精の守り人プロジェクト設立記念講演会(10月)、さざんか祭り(11月)、地元町内会行事等支援 まちづくり委員会アンケート集計等支援 地域交通安全街頭指導(毎月実施)	○

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

【旭自治区】～旭インターを核としたまちづくり～

No.	項目	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
24	1 農業振興	1 農業振興 (1)担い手の位置付けと守るべき農地の選定 ①人・農地プラン策定 ・旭全地区(公民館単位区)で策定 ・策定面積は481.6ha ②サポート経営体支援 ・経営検討会の開催 ・受委託の仕組みづくり支援	○	○	1 農業振興 (1)農地の保全 ①農地集積の推進 ・質の高い農地への基盤整備事業の実施 (農道、河川管理道舗装・・・4地区19集落) ②作業受委託の促進 ・サポート経営体への支援 多角経営作目の検討 ・中核担い手への支援 農業機械購入補助 ・一般農家への周知 作業委託内容チラシ配布	○	△	1 農業振興 (1)農地の保全 ①農地集積の推進 ・質の高い農地への基盤整備事業等の継続実施 (耐久性畦畔・・・1地区、1,860m、畦畔除草省力化・・・2地区、10,525㎡) ・特色ある米ブランド化への支援 旭豊米(坂本)のふるさと納税返礼品採用(10月)、店頭及びWEB販売開始 ・アスパラガス栽培の推進 新規生産者1名 ②作業受委託の促進 ・サポート経営体への支援 突風被害への施設再生備補助(4月) ・中核担い手への支援 1農家に対して補助事業実施 ・オペレーターの組織化検討 役員会で組織化を協議 ・一般農家への周知 農業関係組織代表者等への周知	○	△	1 農業振興 (1)農地の保全 ①農地集積の推進 ・質の高い農地への基盤整備事業等の継続実施 (耐久性畦畔・・・1地区、3,820m、畦畔除草省力化・・・1地区、8,396㎡) ・特色ある米ブランド化への支援 農事組合法人設立予定(30年7月) 県立大学との共同研究(坂本米販路拡大) 坂本米ふるさと納税返礼品6.0t、一般販売2.2t ・アスパラガス栽培の推進 組合せ作物として2試験圃場の設置 ②作業受委託の促進 ・サポート経営体への支援 役員会での助言 ・中核担い手への支援 補助事業の積極的な導入誘導	○	○
		(2)山ノ内梨園産地強化対策 ①担い手の育成・確保に向けた協議	△		(2)山ノ内梨園産地強化対策 ①産地維持と担い手の育成・確保 ・遊休樹園地の再生検討 再生方法の詳細検討と作目候補の選定 ・改植支援の検討 島根県西部農林振興センターとの連携による改植誘導 ・加工品の開発検討 梨ジェラート完成	△		(2)山ノ内梨園産地強化対策 ①産地維持と担い手の育成・確保 地域おこし協力隊員が営農継承予定(29年度から) ・担い手確保に向けたPR 農業人フェアにてPR実施 ・遊休樹園地の再生基本計画策定 再生方法の見直しを検討 ・継続的な改植推進と支援 補助事業導入により482本改植実施 ・加工品の継続開発検討 県立大学生との連携	△		(2)山ノ内梨園産地強化対策 ①産地維持と担い手の育成・確保 ・遊休樹園地の再生利用計画策定 方針決定と具体的利用計画の検討 30年3月中旬を工期に再整備中 プロジェクトチームによる後利用の検討 ・担い手確保に向けたPR 第三者継承の継続的な推進 地域おこし協力隊員が営農継承予定(研修中、30年3月継承) ・継続的な改植推進と支援 補助事業の積極的な導入誘導 補助事業導入により330本改植実施 ・加工品の開発検討 合同会社との連携実施 (梨ケチャップの販売開始) 県立大学との連携は未実施 (合同会社との連携優先のため)	○	
	実施した内容				実施した内容			実施した内容			計画		

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

2 観光交流	2 観光交流 (1) 旭温泉の活性化 ① 余剰温泉水の活用 ・ビジネスプランコンテストの実施(27年3月) ② 集客向上の検討 ・パークゴルフ場の視察及び研究調査 ・あさひ温泉との連携協議 ③ あさひ荘リニューアルオープン(8月)	△	2 観光交流 (1) 旭温泉の活性化 ① 温泉水コンテスト提案採用者への事業実施支援 ・募集開始(8月) ・審査会(28年3月予定) ② 旭温泉集客アップ検討 ・周辺誘客施設との連携 アサヒテングストーン、木田暮らしの学校からの割引制度を活用した誘客 広島PRセンターとの企画協議 コンサルタントによる集客アップ研修(宿泊者 対前年107%) ③ パークゴルフ場整備の検討 ・パークゴルフ場の視察	△	2 観光交流 (1) 旭温泉の活性化 ① 起業決定者への事業実施計画策定に向けた支援 ⇒ 初期投資支援交付 ・事業実施予定地地権者との交渉支援 農用地区域除外及び農地転用許可取得(9月) ・起業決定者への定住支援 情報提供の実施 ② 旭温泉集客アップ検討 ・周辺誘客施設との連携 県立大学生との連携 ・広島PRセンターの有効活用誘導 旭温泉ツアープログラム再検討要請 ・泊まりやすい施設への施設整備支援 補助事業導入による2施設事業実施 ③ パークゴルフ場整備の検討 ・整備に向けて金城自治区との連携強化 ・ゴルフ大会(市内)でアンケート実施(11月) ⇒ 賛否半々	△	2 観光交流 (1) 旭温泉の活性化 ① 起業家への事業進行管理と継続支援 ・旭温泉旅館組合、木田暮らしの学校との連携 すっぽん鍋を宿泊プランの1つに設定 ② 観光戦略の立て直し ・旭温泉集客アップ検討 毎月「旭の日」を設定した集客イベント開催 ・矯正施設面会者等への割引制度の実施未実施 ・「すっぽん」をキーワードとした集客アップ支援 すっぽん鍋宿泊プラン創出への助言 ・県立大学生、木田暮らしの学校との連携強化 県立大学との連携未実施(木田暮らしの学校との連携優先のため) 木田暮らしの学校での体験を絡めた宿泊プランについて検討 ・広島PRセンターの有効活用誘導 旭温泉ツアープログラムの再検討支援 旭温泉活性化意見交換会開催(30年2月) ③ パークゴルフ場整備の検討 ・方針決定 課題を整理し、整備の実施は困難と判断 ⇒ 整備計画中止【再掲】	△
3 まちづくり	3 まちづくり (1) 未利用施設の利用検討 ① 旧木田小学校施設等改修工事(27年2月完成) ② 旧今市分校改修設計 ③ 旧和田小学校を和田公民館として利用 (2) 集落再編 ① 集落での持続可能性の検討	○ △	3 まちづくり (1) 未利用施設の有効利用 ① 木田・暮らしの学校プレオープン ・条例制定、指定管理者の指定 ・農業体験ツアー、結婚式、雑巾がけタイムトライアル、婚活イベント等開催 ② 旧今市分校の整備 ・図書館移転事業の断念 ・検討組織を結成し引き続き検討 ③ 旧和田小学校消防施設等整備 ・排気口・非常連絡設備設置、壁面改修 ④ 旧市木小学校跡地利用検討 ・市木自治会と整備計画について協議 ・地域交流施設に転用することを決定 (2) 集落機能の強化 ① 現行60集落の再編支援策の実施 ・3地区(来尾、都川、重富)7集落の再編支援	△ ○	3 まちづくり (1) 未利用施設の有効利用 ① 木田・暮らしの学校開校 ・木田地区振興協議会による指定管理者運営(平成28年度から30年度) 各種イベントを開催、カフェをオープン ② 旧今市分校の整備 ・再検討具体案を提示 公募に対して応募なし ③ 旧和田小学校校舎貸与再公募 ・地域雇用の生まれる施設として公募1者が応募 ④ 旧市木小学校校舎解体・改修工事、ふれあい広場の整備 ・地域交流施設として転用 解体終了(10月) 上屋、倉庫整備(11月) ⑤ 旭自治区まちづくり連絡会の設立支援 ・正式な組織としての連絡会にはしない 方針に決定 ・連絡会議は開催し、情報共有、連携強化 (2) 集落機能の強化 ① 再編支援策の継続実施 1地区2行政区の再編に向け協議、集落再編には至らず	△ △ △	3 まちづくり (1) 未利用・複合施設化の有効利用 ① 木田暮らしの学校 ・木田地区振興協議会による指定管理者運営(28年度から30年度) ② 普通財産の貸与再公募 ・旧和田小学校・旧都川小学校寄宿舎・旧今市分校の公募に対して応募無し ③ まちづくり推進委員会連携会議の開催 ・連絡会及び研修会を実施し、情報共有 ④ 市木ふれあい広場整備工事の実施 ・駐車場を整備 ⑤ 旭支所庁舎を複合施設として活用 ・図書館・社協・今市公民館と協議実施 (2) 集落機能の強化 ① 再編支援策の実施 個別の相談対応(随時) (3) 地域と連携した空き家対策事業 ・空き家バンクの登録促進、各地区の居住環境整備 個別の相談対応(随時)	△ △ △

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

【弥栄自治区】～農業生産と加工・体験交流による定住促進～

No.	項目	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
25	1 農業振興	1 農業振興 (1)農業振興 ①有機農業者の育成 ・施設野菜生産者協議 ・定例会議の開催 ・先進地視察の実施 ②弥栄米のブランド化 ・集落営農組織との協議 ・集落営農推進協議会の設立 (2)農産品加工 ①農産物の利用 ・町内農産加工品の取りまとめ ・町内農産加工グループ協議 ・どぶろく振興協議会の強化 ②鳥獣肉加工処理施設検討 ・処理施設先進地視察 ・ジビエサミット参加	○	○	1 農業振興 (1)農業生産 ①有機野菜農家の育成 ・農家所得500万円を目指す野菜農家モデルの決定(12月) ・堆肥センターを活用した土づくり(関係者協議中) ・ハウス団地整備計画(検討中) ・新期就農者支援計画の策定(12月) ②弥栄米のブランド化と奨励作目 ・集落営農組織生産者協議会(5月設立、12月開催) ・弥栄米袋作成(9月) ・弥栄米ブランド推進大会(28年2月) ・弥栄米推進計画作成 ・食味値80以上を目指した栽培方法を統一した取組開始(10月) ・転作作目(大豆、ソバ)の推進 作付面積15.0ha (2)農産品加工 ①農産加工品の増産支援 ・やさか加工グループ立上げ(12月) ・弥栄自治区特産品加工工場改修(12月) ・どぶろく、みそ、いぶり香香、漬物類加工増産 いぶり香香:3,500本(26年度:700本) どぶろく:12,000千円(26年度:9,153千円) ②イノシシ肉加工 ・イノシシ肉加工処理施設新設(11月) ・精肉処理加工⇒販売開始	○	○	1 農業振興 (1)有機野菜農家の育成 ①弥栄自治区有機農業推進協議会 ・市内業者との提携 市内での秘境奥島根弥栄フェア開催(10月～12月) ・農家所得500万円を目指す野菜農家モデルの推進支援(継続中) ・堆肥センターを活用した土づくりを促進 (2)弥栄米のブランド化と奨励作目の推進 ①組織体制の構築 ・弥栄自治区集落営農組織推進協議会の法人化 ⇒「一般社団法人奥島根弥栄」設立(9月21日) ・事務局営業体制の整備 ②弥栄米のブランド化 ・弥栄米栽培基準の推進(28年度:10ha) ・販売促進 日本一のこだわりの米屋が、つや姫(農薬7割減)を全量買い取り ・交流活動の実施(田植、稲刈り体験) 台風により中止 ・弥栄米パンフレットの作成 販売促進に活用 ・弥栄米グッズの作成 米袋(30kg、5kg、2.2合)、チラシを作成 ・秘境奥島根弥栄ホームページの立上げ(9月) ③大豆等の推進 ・新品種への取組拡大(17ha) ④農地を守る仕組み作り ・中山間地域直接支払制度の積極的活用 中四国農政局特別賞受賞、視察受入れ(12件) (3)農産品加工 ①農産加工品の増産支援 ・弥栄加工計画の作成 既存の加工状況を整理、計画書作成までは至らず ・どぶろく、乾燥山菜、保存食、漬物類の加工増産 いぶり香々:2,700本(27年度3,500本) どぶろく:10,600千円(27年度12,000千円) 乾燥山菜、保存食については検討段階 ②イノシシ肉加工 ・猪肉の販売促進 ・精肉処理加工組織体制強化	○	△	1 農業振興 (1)農業生産 ①有機野菜農家の育成 ・弥栄野菜生産者協議会の設立(10月) ・美味しな認証取得(5経営体) ・有機野菜の栽培推進 3経営体が増棟予定 ・共同出荷体制の構築 11月から試験的に実施 ・新規就農者の確保 1名が研修を終え、新規就農 ②弥栄米のブランド化と奨励作目 ・一般社団法人秘境奥島根弥栄の支援強化 ・販売促進 ・ブランド推進 百貨店、こだわりの店での販売 ・栽培面積の推進(29年度:25ha) ・経営の多角化への取組推進(検討中) ・秘境奥島根弥栄「応援団」への取組SNSによる活動推進 ③農地を守る仕組み作り ・集落営農組織連携協議会を中心とした農地を守る仕組み作りの実施 除草省力化事業を1組織が実施 ・任意組織の法人化 5組織目が設立(30年2月) ・集落巡回の実施(延べ23集落) ・弥栄独自のプラン作成(全集落)(現在及び今後の農地の守り方)作成継続中 ・弥栄農業ブランド推進大会の開催 30年3月開催予定 ・農福連携の取組開始 関係者と協議中 ・多面的機能維持支払事務委託体制の確立 29年度から実施 ・担い手・後継者の確保 1名が研修を終え新規就農、1名が研修継続中 (2)農産品加工 ①農産加工品の増産支援 (米、野菜、椎茸の加工検討) ・弥栄加工計画の作成(作成中) ・加工場の積極的利用(継続取組中) ②イノシシ肉加工 ・体制整備 地域おこし協力隊1名配置 ・加工量の増産及び地区内利用の推進 112頭受入れ(30年1月末現在)	○	○
		実施した内容	実施した内容		実施した内容	実施した内容							

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

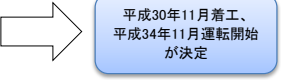
2 観光交流	2 観光交流 (1) 交流人口の増加の仕掛けづくり ① 弥栄の食材・地域資源(人)の活用 ・三國シェフによる研修会開催 ・全国どぶろく研究大会への出品 ・新メニュー考案(ソバと地元食材) ② ツーリズムの拠点づくりの検討 ・めぐりん四季の体験交流 ・弥栄ええとこ歩きの実施 ・大学フィールドワークの実施 (2) ふるさと体験村の利用促進 ① 宿泊者の増加への取組 ・地域と連携した体験(癒し、合宿、研修)メニュー構築 ・情報発信への取組	○	△	△
	2 観光交流 (1) 体験交流 ① ふるさと体験村を活用した交流イベント ・四季の体験交流イベント(13回) ・しし肉ジビエ料理の提供 ・ふるさと体験村料理メニューで提供 ・新そば、新米どぶろくイベント(未実施) ・山陰どぶろく研究大会(9月) ・体験村ホームページ更新(28年3月) ② ツーリズムの推進 ・大学フィールドワークの受入れ(9月) ・弥栄地域魅力プログラムの構築(未実施) ・県内モニターツアーの実施(未実施) (2) ふるさと体験村の利用促進 ① 宿泊者の増加への取組 ・民泊との連携による宿泊型体験交流の実施(未実施) ・体験村ホームページ更新による体験メニューの情報発信(28年3月) ・浜田市ツーリズム協議会との連携(そば打ち体験、川遊び体験を実施)	△	△	△
3 まちづくり	3 まちづくり (1) 定住促進 ① 弥栄に住み続けるための環境整備 ・住みよい集落づくり事業による集落活性化支援 ・定住サポート推進員の設置 ・住宅の新築及び改修への支援 ・高等学校等への通学費への支援 ② 住民主体のまちづくり推進 ・まちづくり推進委員会への活動支援 ③ 農業研修生の受入れ ・農人フェアへの参加 ・農林業支援センター ④ 新規就農者の育成 ・研修受入先との協議連携 (2) 災害に備える体制づくり ① 地域防災力の強化 ・自治区内防災体制の整備 ・モデル地区での防災対応型訓練の実施 ・避難行動要支援者名簿の作成	○	△	△
	3 まちづくり (1) 定住促進 ① 弥栄に住み続けることへの環境整備 ・住みよい集落づくり事業による集落活性化 ・21集落の事業に対し補助 ・定住サポート推進員の設置 ・空家調査、Uターン招致活動に従事 ・住宅の新築及び改修への支援 ・2件の新築補助 ・高等学校等への通学費への支援 ・24名に補助 ② 住民主体のまちづくり推進 ・まちづくり推進委員会への活動支援 ・婚活事業や産直事業に協力 ・まちづくり組織の再構築に向けた関係自治会長会と協議し再構築準備(平成28年度から実施) ③ 農業研修生の受け入れ ・農人フェアへの参加(6回) ・農業現地ツアーの参加に繋がった ④ 新規就農者の育成 ・研修受入先との協議連携 ・4組受入れ (2) 災害に備える体制づくり ① 地域防災力の強化 ・自治区内防災体制の整備 ・9集落が組織化 ・集落における防災体制構築への支援 ・説明会・出前講座等を23回実施 ・避難行動要支援者の個別計画の作成 ・説明会を実施	○	○	○
2 観光交流	2 観光交流 (1) 体験交流 ① ふるさと体験村を活用した交流イベント ・四季の体験交流イベント(16回) ・しし肉ジビエ料理の提供 ・猪肉丼、猪肉の焼肉 ・新そば、新米どぶろくイベント(未実施) ② ツーリズムの推進 ・農業交流体験事業の実施 ・大学生の受入れ (2) ふるさと体験村の利用促進 ① 宿泊者の増加への取組 ・民泊との連携による宿泊型体験交流の実施(未実施)	△	△	△
	2 観光交流 (1) 体験交流 ① ふるさと体験村を活用した交流イベント ・四季の体験交流イベント(4回実施) ・田植、稲刈り体験 ・稲刈り体験実施(9月) ・広島への積極的なPR ・イベント出店、商談3回実施 ・古民家の有効活用 ・古民家で「そば処」を6回実施 ・一般社団法人奥島根弥栄との協働 ・弥栄農泊ツアー実施(11月) ② ツーリズムの推進 ・農業交流体験事業の実施 ・一般社団法人奥島根弥栄で実施(弥栄農泊ツアー実施(11月))【再掲】 (2) ふるさと体験村の利用促進 ① 宿泊者の増加への取組 ・外部専門業者との提携 ・バスツアーへのどぶろく提案、どぶろく鍋の共同開発	△	△	△
3 まちづくり	3 まちづくり (1) 定住促進 ① 弥栄に住み続けることへの環境整備 ・集落と協働した定住者の受入れ ・7世帯10名(単身5世帯) ・住宅環境の整備支援(2件) ・定住後の生活環境相談支援 ・相談環境を整備し随時対応 ② 住民主体のまちづくり推進 ・地域と一体化したまちづくり組織の活動 ・自治会長とまちづくり推進委員会の合同会議を2地区実施(今後継続) ・住民主体の研修事業開催 ・地区単位で避難訓練(29年3月) ③ 農業研修生受入れ ・農人フェア等、積極的なスカウト活動 ・研修期間からの新規就農サポート ・新規2名受入れ、継続1名 ④ まちづくり活動拠点の整備 ・行政財産のスリム化に併せた拠点整備 ・杵束地区コミュニティ施設改修プラン化方針決定 (2) 災害に備える体制づくり ① 地域防災力の強化 ・自治区内防災体制の整備継続 ・集落における防災体制構築への継続支援 ・自主防災未組織地区への防災出前講座を実施(2地区) ・避難行動要支援者の個別計画の作成	○	△	△
	3 まちづくり (1) 定住促進 ① 弥栄に住み続けることへの環境整備 ・地域のブランディングによる定住環境の魅力化と支所事業の最適化 ・県外からの定住体験ツアーの実施と県外への誘致活動のプランニング ・体験ツアープラン化とサロソ事業実施 ・集落と協働した定住者の受入れ ⇒8世帯13名(単身4世帯、30年3月末見込) ・住宅環境の整備支援 ・住宅購入補助2件 改修補助1件 ・定住後の生活環境相談支援 ② 住民主体のまちづくり推進 ・地域と一体化したまちづくり組織の活動 ・まちづくり組織と行政の協働による、長期の第2期まちづくり計画策定(2地区) ・アンケート実施、解析サポート ・住民主体の研修事業開催 ・地域づくりリーダー研修実施(30年3月) ・地域と共に弥栄の環境を活かしたイベント実施(ウルトラマラニック大会) ・エントリー239名 実走208名 ③ 農業研修生受入れ ・農人フェア等、積極的なスカウト活動 ・東京・大阪に参加 ・研修期間からの新規就農サポート ・1名が研修を終え、新規就農【再掲】 ④ まちづくり活動拠点の整備 ・施設活用のご提案作成(取組中) (2) 災害に備える体制づくり ① 地域防災力の強化 ・自治区内防災体制の整備継続 ・集落における防災体制構築への継続支援 ・実働体制の見直し ・自主防災未組織への組織化集中支援 ・避難行動要支援者の個別計画の作成 ・地元集落との連携再確認	○	△	△

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

【三隅自治区】～地域に根ざしたまちづくり、三隅発電所を核としたまちづくり～

No.	項目	平成26年度	評価	総合評価	平成27年度	評価	総合評価	平成28年度	評価	総合評価	平成29年度	評価	総合評価
26	1 産業振興	1 産業振興 (1) 石州半紙の振興 ① ユネスコ無形文化遺産再登録 ・本美濃紙、細川紙との連携協議 ② 新商品化と販路開拓の検討 ・過去の新製品開発に関する企画書のデータ化 ・和紙技術会との協議・課題整理 ・ふるさと寄附の商品登録 ・千葉すずさんに「PR大使」を委嘱 ③ 「碧い石見の芸術祭」との協働 ・美術大学学生の画材活用 ・和紙デザインコンペの開催と製品化検討 ④ 原材料「楮」の確保 ・原材料の確保対策のための楮栽培(30a) (2) 特産品「西条柿」の振興 ① 灌水施設等の整備 (平成26年～29年) ・生産向上のための耕作地の整備 ② 地元生産者との協議 ・新商品化と付加価値化、販路開拓の研究 ・後継者と労働力不足の検討 ③ 販売促進の検討 ・三隅特産品販売センター(道の駅)活用	○		1 産業振興 (1) 石州半紙の振興 ① 「ユネスコ無形文化遺産」 ・登録3団体によるシンポジウムを東京で開催(8月) ② 新商品化と販路開拓の検討 ・和紙の郷づくり企画の策定について和紙会館運営を含めて協議 ・和紙会館のあり方を和紙技術者会と協議 ・ふるさと寄附の登録商品を各事業所(4事業所)で提供 ・和紙人形教室を開催(6回開催(1回あたり2日間)、14名受講) ・新製品の試作品製作と役割分担未実施 ③ 「碧い石見の芸術祭」との協働 ・美術大学生の画材活用として、石本正日本画大賞展出展者に画材提供 ・デザインコンペの商品化について、しまね産業振興財団、碧い石見の芸術祭実行委員会と協議中 ・デザイナーとの連携と協力の確立化未達成 ④ 「楮」の新規植栽 ・70aの計画に対し、40aを新規栽培 ・新規耕作者に対し、楮栽培、加工等の技術研修を実施	△		1 産業振興 (1) 石州半紙の振興 ① 「ユネスコ無形文化遺産」 ・登録3団体による第1回和紙サミットを浜田市で開催(7月) ② 石州和紙会館の運営 ・営業体制の構築と販路拡大 ・管理、運営体制の見直し(市直営)、今後の体制を協議 ③ 後継者育成 ・和紙研修生の受入れを実施 ・後継者育成プログラム作成 ④ 新商品化の検討 ・石州和紙推進組織の立上げ検討 ・和紙技術者会と定期的に協議(定例会等) ⑤ 新製品開発のための意識啓発セミナー開催(10月) ・和紙人形教室を開催(6回開催(1回あたり2日間)、11名受講) ・デザイナーとの連携と協力の確立検討 ⑤ 「碧い石見の芸術祭」及び「石正美術館」との協働 ・美術大学学生の画材活用のPR ・石本正日本画大賞展の出展者に画材提供 ・デザイナー、しまね産業振興財団等と協議 ⑥ 原材料「楮」の新規植栽 ・新規栽培21a(計画40a) ・楮栽培、加工等の技術研修実施	△		1 産業振興 (1) 石州半紙の振興 ① 石州和紙会館の管理・運営体制 ・指定管理者の検討、協議(協議中) ② 紙漉き後継者の育成 ・研修生3名が各事業所で研修中 ・紙漉き研修の調整 ・研修後の受け入れ等の検討 ③ 和紙の他用途活用の推進 ・石州和紙を活用したクリエイター育成セミナー検討 ・和紙技術者会等との定期的な協議 ・「碧い石見の芸術祭」及び「石正美術館」と和紙の活用協議 ④ 和紙推進体制の整備 ・石州和紙活性化プロジェクトの立上げ(9月) ・石州和紙推進組織の立上げ検討 ⑤ 原材料「楮」の新規植栽 ・新規栽培62a(計画40a) ・楮栽培、加工等の技術研修実施(7月、10月、12月、30年1月) ・楮栽培の産業化について調査検討 (2) 西条柿の振興 ① 灌水施設等の整備継続 ・東平原地区(平成26年度～平成30年度) ② 西条柿生産検討委員会との協議 ・専門家等との加工商品の開発協議 ・未利用西条柿の活用の検討 ・アドバイザー研修(未利用柿の活用含)の開催(7月) ③ 販売促進の検討 ・道の駅を利用した西条柿販売及び試作品等の販売(生産者直接販売含)を実施 (3) ゆうひパーク三隅の活性化 ① 情報の発信 ・ゆうひパーク便り(毎月1回発行)やSNS、ケーブルTV等を活用した情報発信 ② 誘客対策 ・毎週日曜日や連休でのイベントの開催 ・ゆうひパーク三隅から望む日本海の風景等の写真展の開催 ・地域と連携した事業を協議 ・地元特産品のネット販売等の検討 ・ゆうひパーク三隅を起点とした、サイクリングコースの検討	△	
	実施した内容				実施した内容			実施した内容			実施した内容		

「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

2 まちづくり	2 まちづくり (1) 住民自治組織の構築と協働 ① 地域の課題解決と地域づくりの推進 ・地域づくり実践のための各地区の計画書作成支援 ・各地域の課題解決のための支所支援(地域担当制) ・コミュニティ活動の支援 ② 自治組織の活動拠点の整備 ・集会所の改修等の補助 ③ 災害・防災時の住民自治組織の体制 ・自主防災組織の設立支援 ・支所・地域・消防団との連携	○	2 まちづくり (1) 住民自治組織の構築と協働 ① 地域の課題解決と地域づくりの推進 ・地域づくり実践のための各地区の計画書作成支援により、6地区中5地区が策定 ・各地域の課題解決のための支援は、岡見(買物支援)、井野(地域内交通、育苗センター有効活用等)で協議 ・コミュニティ活動の支援として、自治会、地域活動団体へ補助(41件) ② 自治組織の活動拠点の整備 ・集会所の改修等の補助(20件) ③ 災害・防災時の住民自治組織の体制 ・自主防災組織の設立支援 ・2団体結成 ・支所・地域・消防団と連携した合同訓練を三隅地区で実施(6月) ・防災出前講座実施(9件) ・地域担当制による地域への支援	○	2 まちづくり (1) 住民自治組織の構築と協働 ① 地域の課題解決と地域づくりの推進 ・地域づくり実践のための各地区の計画書作成支援 全6地区策定 ・各地域の課題解決のための支援(地域担当制) ・岡見地区買物対策(わくわくマーケット開店)、井野地区地域内交通協議 ・コミュニティ活動活性化のための備品等の補助 自治会、集落へ備品等の補助(10件) ② 自治組織の活動拠点の整備 ・集会所の改修等の補助(8件) ③ 災害・防災時の住民自治組織の体制 ・自主防災組織の設立支援 ・5団体結成 ・支所・地域・消防団との連携強化(訓練等) 住民参加型総合防災訓練実施(6月) 防災出前講座実施(26件)	○	2 まちづくり (1) 住民自治組織の構築と協働 ① 地域の課題解決と地域づくりの推進 ・各地域の課題解決のための支所支援の継続(地域担当制) ・井野地区公共交通空白地有償運送本格実施に向けて試行運転実施 ※本格運行:30年4月予定 ・コミュニティ活動活性化のための備品等の補助(23件) ② 自治組織の活動拠点の整備 ・集会所改修等の補助(11件) ③ 災害・防災時の住民自治組織の体制 ・自主防災組織の設立支援 4団体結成 ・支所、地域、消防団等との合同訓練 6月:自治区住民参加型防災訓練実施(17団体参加) ・避難行動要支援者に係る関係機関との調整、連携 ・防災出前講座の実施(15件) ・7月4日からの大雨検証聞き取り(29件)	○
	3 三隅発電所を核としたまちづくり (1) 火力発電所2号機の早期着工 ① 2号機建設の早期着工の働きかけ ② 石炭灰を活用した造粒物の製造設備の設置	△	3 三隅発電所を核としたまちづくり (1) 火力発電所2号機の早期着工 ① 2号機建設の早期着工の働きかけ  ② 着工に向けた協議、調整等 ・地元説明会の実施 ・環境影響評価方法書等説明会開催 (2) 石炭灰を活用した造粒物の製造設備の設置 ① 設置の働きかけ ・平成27年11月からHiビーズ製造工場の現地工事、平成28年5月に三隅工場本稼働	○	3 三隅発電所を核としたまちづくり (1) 三隅発電所2号機建設に伴う地域の活性化 ① 作業従事者の宿舍対策 ・三隅発電所との協議 ・空き地の情報を提供 ・空き家調査を実施 ・空き家等の確保 所有者へ空き家バンク登録を依頼 ② 住民自治組織等による宿舍運営の推進 ・宿舍運営実施に向けての検討 ・各地区まちづくり委員会、自治会等との協議(未実施) ③ 地元業者の活性化 ・商工会等との協議、調整 事業者の受注希望等について商工会と協議	○	3 三隅発電所を核としたまちづくり (1) 三隅発電所2号機建設に伴う地域の活性化～新設の三隅発電所対策室との連携 ① 作業従事者の宿舍対策 ・空き家調査(実施済) ・空き家所有者へバンク登録を推進(14件) ・三隅発電所・商工会等との協議実施(継続中) ・空き家改修の補助(9件) ② 住民自治組織等による宿舍運営の推進 ・各地区まちづくり委員会、自治会等との協議 ③ 地元業者の活性化 ・商工会等との協議実施(継続中)	○